

99th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

Philharmony

December 12, 2017
NHK Symphony Orchestra

12



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」[#nhkso]の追加をぜひお願ひいたします。

ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、

周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.

When you share the photos on social media, please add #nhkso.

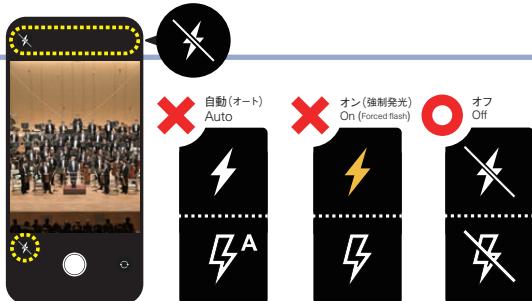
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す(カミナリマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後よりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力ををお願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください



こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようご配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください

Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください

Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)

Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください

Please make sure that your hearing aids are properly fitted.

PHILHARMONY

CONTENTS

DECEMBER 2025

12

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 8 | [公演プログラム] Aプログラム |
| 14 | [公演プログラム] Bプログラム |
| 21 | [公演プログラム] Cプログラム |
| 2 | NHK交響楽団メンバー |
| 26 | 2026年1月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から |
| 28 | チケットのご案内(定期公演2025年9月~2026年6月) |
| 29 | 2025-26定期公演プログラム |
| 31 | [速報] 2026-27定期公演プログラム／特別公演(一部) |
| 36 | 特別公演／海外公演／各地の公演 |
| 42 | 特別支援・特別協力・賛助会員 |
| 46 | 曲目解説執筆者／Information(新入団)／N響の出演番組 |
| 47 | みなさまの声をお聞かせください！ |
| 48 | NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members |

Artist Profiles & Program Notes

- | | |
|----|---|
| 49 | Program A |
| 53 | Program B |
| 58 | Program C |
| 61 | The Subscription Concerts Program 2025-26 |
| 63 | N響関連のお知らせ |
| 64 | N響の社会貢献 |
| 65 | 役員等・団友 |
| 66 | N響100年——おもな記念事業 |

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイージ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

青木 調

飯塚歩夢

○宇根京子

大鹿由希

○倉富亮太

後藤 康

小林玉紀

高井敏弘

東條太河

猪井悠樹

中村弓子

降旗貴雄

松田拓之

○三又治彥

宮川奈々

○山岸 努

○横溝耕一

* 清水伶香

* 湯原佑衣

ヴィオラ

○佐々木 亮

○村上淳一郎

☆中村翔太郎

小野 蒼

小畠茂隆

* 栗林衣李

□坂口弦太郎

谷口真弓

飛澤浩人

○中村洋乃理

松井直之

三国レイチャエル由依

御法川雄矢

○村松 龍

チェロ

○辻本 瑠

○藤森亮一

市 寛也

小畠幸法

○中 実穂

○西山健一

藤村俊介

藤森洸一

宮坂拓志

村井 将

矢部優典

○山内俊輔

渡邊方子

コントラバス

○吉田 秀

○市川雅典

稻川永示

○岡本 潤

今野 京

○西山真二

本間達朗

矢内陽子

フルート

○甲斐雅之

○神田寛明

梶川真歩

中村淳二

オーボエ

○吉村結実

池田昭子

坪池泉美

* 中村周平

和久井 仁

クラリネット

○伊藤 圭

○松本健司

* 堂面宏起

山根孝司

ファゴット

○宇賀神広宣

○水谷上総

大内秀介

佐藤由起

森田 格

ホルン

○今井仁志

石山直城

勝俣 泰

木川博史

庄司雄大

野見山和子

トランペット

○菊本和昭

○長谷川智之

安藤友樹

藤井虹太郎

山本英司

トロンボーン

○古賀 光

○新田幹男

池上 豪

黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

○久保昌一

☆植松 透

打楽器

石川達也

黒田英実

竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライフラリアン

沖 あかね

木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。

[https://www.nhkso.or.jp/
about/member/index.html](https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html)



(五十音順、○首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA TOKYO

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。



bmw.co.jp BMWカスタマー・インターラクション・センター 0120-269-437

※写真の車は日本仕様とは異なります。また、オプション装備等を含む場合があります。

THE X7

BAYERISCHE MOTOREN WERKE



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN



A STAR ALLIANCE MEMBER



www.ana.co.jp



Make Waves



私と、響き合う。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」

ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、

すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。

ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、

演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、

コンサートホールの空間を満たしていく。

これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。

人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、

ピアニストとともに作りあげていくものだから。

旬のピアニスト情報が満載

ヤマハピアニストラウンジ

検索

Pianist Lounge.

<https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

ヤマハ株式会社



この活動を広めるために作成したロゴマークです

文化芸術・集客エンタメをSDGsの18番目の目標に

SDGsの17項目には、文化や芸術、エンタテインメントに関する目標が語られていません。ぴあでは、世界の多様な文化の共存・共生こそが、サステナビリティの根源にあるはずだと考え、その18番目の目標として、文化芸術、エンタテインメント、スポーツの必要性を掲げ、心豊かな暮らしと社会のために、あらゆる人々の文化的活動を支援することを提言します。これらは、私たちにとって“なくてはならないもの”であり、同時に、人々の相互理解やコミュニケーションを深め、差別のない社会を作り、世界平和に向けた共感への近道になると考えています。この活動への、皆様からご支援をお願いいたします。

ひとりひとりが生き生きと

ぴあ

※1998年に発表した、
当社の企業理念です



PROGRAM

A

第2051回

NHKホール

11/29 土 6:00pm

11/30 日 2:00pm

指揮 ファビオ・ルイージ

ヴァイオリン レオニダス・カヴァコス

コンサートマスター 郷古 廉

ショスタコーヴィチ
ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調
作品77[38']

I ノクターン:モデラート
II スケルツォ:アレグロ
III パッサカリア:アンダンテ
IV ブルレスケ:アレグロ・コン・ブリオ

——休憩(20分)——

ツェムリンスキ

交響詩「人魚姫」[40']

I きわめて適切な動きをもって
II きわめて動き、ざわめくように
III きわめて広がりをもって、苦惱に満ちた表現で

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)

Artist Profiles

ファビオ・ルイージ(指揮)



©Yasue Matsukane/SF

イタリア・ジェノヴァ出身。2001年にN響と初めて共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演でヴェルディ《レクイエム》を、2023年12月のN響第2000回定期公演でマーラー《一千人の交響曲》を指揮した。2024年には台湾公演を率い、翌2025年5月にはアムステルダム・コンセルトヘボウでの「マーラー・フェスティバル」、「プラハの春音楽祭」、「ドレスデン音楽祭」への参加を含むヨーロッパ公演を成功に導いた。なおN響は「マーラー・フェスティバル」に参加したアジア最初のオーケストラとなり、《交響曲第3番》《同第4番》の演奏は評論家から称賛を集めた。

現在、デンマーク国立交響楽団首席指揮者およびダラス交響楽団音楽監督。またチューリヒ歌劇場音楽総監督、メトロポリタン歌劇場首席指揮者、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレステン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR(中部ドイツ放送)交響楽団プリンシパル・コンダクターおよびチーフ・コンダクター、スイス・ロマンド管弦楽団芸術監督、ウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団首席指揮者、グラーツ交響楽団首席指揮者などを歴任。このほか、イタリアのプーリア州マルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督、トリノを本拠とするRAI国立交響楽団の名誉指揮者も務めている。また、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラなど最高峰のオーケストラ、歌劇場、音楽祭に定期的に客演している。

録音ではデンマーク国立交響楽団との『ニルセン交響曲全集』が2023年にオーストラリアのライムライト賞とイタリアのアッピアーティ賞を受賞し、その第1集は『グラモフォン』誌の年間最優秀録音賞に選ばれた。またメトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》のDVDはグラミー賞を受賞した。NHK交響楽団との初CD『ブルックナー／交響曲第8番(初稿)』は、2025年5月にリリースされた。

彼は優れた作曲家、調香師でもある。

レオニダス・カヴァコス(ヴァイオリン)



©Marco Borggreve

ショスタコーヴィチ没後50年の2025年、現代最高峰のヴァイオリニスト、レオニダス・カヴァコスが名作の誉れ高い《ヴァイオリン協奏曲第1番》を弾く。音楽の深淵を見つめたかのようなノクターン、パッサカラ、壮大なカデンツァ、音楽が乱舞するブルレスケと呼応、交歓するカヴァコスへの期待はまさに限りない。

ギリシャ、アテネの音楽一家の出身。地元のアカデミーで学んだ後、米インディアナ大学で名伯楽ジョゼフ・ギンゴールドのもとで技と音楽に磨きをかけた。ヘルシンキのシベリウス、インディアナポリス、ニューヨークのナウムバーグ、イジェノヴァのパガニーニ各国際コンクールに優勝または入賞。いっぽう指揮者としても活躍し、カメラータ・ザルツブルクの首席指揮者も務めた。2025-2026年シーズンもソリストとしてロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、

ニューヨーク・フィルハーモニックほかと共に演。近年はバッハ、ベートーヴェンを軸とした多彩なプロジェクト、録音も進行中だ。NHK交響楽団との初共演は2000年12月、シャルル・デュトワ指揮のチャイコフスキ。前回の出演は2021年10月、プロムシユテット指揮のブームスでいずれも賞賛を博している。

〔奥田佳道／音楽評論家〕

Program Notes | 淩井佑太

このプログラムでは、異なるふたつの「語り」が響き合う。

ショスタコーヴィチの《ヴァイオリン協奏曲》では独奏が一人称で内面を告白し、ツェムリンスキの《交響詩「人魚姫」》では管弦楽が三人称で童話を物語る。とはいえ、語りの視点は違っても、そこに映し出されるのは作者自身の心の影にほかならない。一方ではスターリン政権の重圧下での苦悩、そしてもう一方ではアルマ・シントラーへの叶わぬ愛の痛み……。対照的なふたつの声を続けて聴けば、20世紀音楽の多彩な感情が見えてくるに違いない。

ショスタコーヴィチ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

20世紀ロシアを代表する作曲家ドミトリー・ショスタコーヴィチ（1906～1975）は、生涯を通じて「創作の自由」と「政治的圧力」のはざまで揺れ続けた。

《ヴァイオリン協奏曲第1番》が書かれたのは1947年から1948年——さまざまにしこりがあったとはいえ、政府との関係も安定し、彼が比較的好待遇を受けていた時期である。しかし平穏な日々は長くは続かない。作品完成間際の1948年2月、スターリン政権による大規模な芸術統制（いわゆる「ジダーノフ批判」）が開始され、ショスタコーヴィチは突如「形式主義者」として糾弾されることになる。彼の音楽は過度に前衛的で、ソヴィエト人民に寄り添っていないというのだ。いまや「反人民的作曲家」の烙印を押された彼に作品を発表する道は閉ざされ、この協奏曲は作者の引き出しに封印されるほかなかった。

初演が実現するのは、スターリンの死後、雪解けムードが訪れた1955年10月になってからである。独奏を務めたのは献呈先でもある名手ダヴィッド・オイストラフで、指揮はエフゲニー・ムラヴィンスキによる。作曲から実に8年近くが経とうとしていた（なおこの間に、オイストラフとの協議の上、作品には若干の改訂が施されている）。

本作は全4楽章から成り、交響曲に匹敵するスケールと劇的性格をもつ。瞑想的な第1楽章（ノクターン）では、陰影に富んだ管弦楽の上で、独奏ヴァイオリンが長い旋律線を

たゆたわせるように歌う。一転して、第2楽章（スケルツォ）は毒気に満ち、疾走する音楽の中にショスタコーヴィチの自伝的暗号「DSCH音型（レ・ミ・ド・シ）」が鋭く刻み込まれる。第3楽章（パッサカラ）は全曲の中心に据えられた荘厳な変奏曲で、重々しい低音の主題の上に独奏ヴァイオリンが激情を増していく。やがて長大なカデンツァを経て、第4楽章（ブルレスケ）へとなだれ込むと、民俗舞曲風の音楽が嵐のように駆け抜け、全曲を華やかに締めくくる。

全体としては、「内省的な」奇数楽章と「外向的な」偶数楽章を行き来しつつも、その表面下には常に苦悩と風刺が見え隠れする。個人的告白と偽りの祝祭性という両極が拮抗するこの作品は、政治的弾圧に抗い続けたショスタコーヴィチの姿そのものといつても過言ではない。

作曲年代	1947～1948年
初演	1955年、10月29日、レニングラード（現サンクトペテルブルク）、指揮エフゲニー・ムラヴィンスキイ、 レニングラード・フィルハーモニー交響楽団、独奏ダヴィッド・オイストラフ
楽器編成	フルート3（ピッコロ1）、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン1）、クラリネット3（バス・クラリネット1）、ファゴット3（コントラファゴット1）、ホルン4、テューバ1、ティンパニ、タンブリン、銅鑼、シロフォン、 チェレス1、ハープ2、弦楽、ヴァイオリン、ソロ

ツェムリンスキイ

交響詩「人魚姫」

輝かしい未来を嘱望されながらも、歴史の隅に追いやられた作曲家——アレクサンダー・フォン・ツェムリンスキイ（1871～1942）ほど過小評価されてきた存在もそうはいまい。

世紀転換期のウイーンにおいて、彼は次世代を担うべき新星だった。早くも音楽院の学生時代にブラームスに才能を認められ、卒業後は28歳にして、マーラーの指揮でオペラ《昔あるとき》が初演されるなど、めきめきと頭角を現しはじめる。しかし、ある意味で最大の転機となるのは、1895年に3歳年下のシェーンベルクと出会ったことだろう。ツェムリンスキイは当時まだアマチュア作曲家であったシェーンベルクの唯一の師／親友として大きな影響を与えるも、自らは後期ロマン派の枠組みにとどまり続けたこともあり、次第にかつての弟子の影に隠れていくことになる。

《交響詩「人魚姫」》は両者が深い関係にあった1902年から1903年の作品であると同時に、ツェムリンスキイの最良の成果のひとつといって間違いない。陶酔と苦悩の濃密なドラマ、名人芸の域にあるオーケストレーション、それでいて揺るぎない構成感——ここには管弦楽の魅力と技術の粹が余すところなく詰め込まれているのだ。

本作はアンデルセンの童話『人魚姫』を下敷きにした「幻想曲」であり、全3部を通じて物語の心理的ドラマが描き出される。深い海底、荒れ狂う嵐、そして人魚姫による海に

投げ出された王子の救出(第1部)、人間界の王子に恋した人魚姫は、魔女との取引によって、声を犠牲にして足を得るも(第2部)、その想いは報われず、最後は泡となって消え、天上へと昇華する(第3部)——そして、その筋書きには、ツェムリンスキー自身の失恋体験(アルマ・シントラー、のちのマーラー夫人との破局)が重ねられてもいる。実際に、届かぬ愛への憧れ、声を失うという自己喪失、肉体の滅びを経て魂が救われるという構図は、この時期の彼の精神状況を表すものだろう。

『人魚姫』は1905年にウィーンで初演されおおむね好評を博し、ベルリンとプラハにおける再演時の評判も上々だった。しかしながら、奇妙にもツェムリンスキー自身はこの作品が気に入らなかったようで、出版を試みることもなかった。その理由は定かではないが、同じ演奏会で初演されたシェーンベルクの『交響詩「ペレアスとメリザンド」』(1902~1903年作曲)が巻き起こした激しい賛否を前に本作が霞んでしまったことが一因にはあっただろう。

以後、『人魚姫』は長らく忘れられていたが、1976年に自筆譜が発見され、いまではツェムリンスキーの最も人気のある作品のひとつに数えられる。なお本日演奏されるのは2013年に出版された初稿版で、ここには初演前に削除された第2部中盤の「海の魔女」のエピソードが復元／収録されている。約85小節、演奏時間にして5分ほど。カットの理由の一端は、ウィーンの聴衆の保守的嗜好を考慮したことにあると思われる。事実、このエピソードは曲全体で最も大胆かつ不協和な書法が用いられている部分でもあり、本日はツェムリンスキーの進歩的な一面を堪能できることだろう。

あと10年、いや5年早く世に出ていれば、記念碑的傑作として歴史に名を刻んでいたのではないか——そう思わずにはいられない珠玉の管弦楽作品である。

作曲年代	1902~1903年
初演	1905年1月25日、ウィーン、楽友協会大ホールにて、作曲者自身の指揮、ウィーン演奏協会管弦楽団
楽器編成	フルート4(ピッコロ2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3、ホルン6、トランペット3、トロンボーン4、テューバ1、ティンパニ、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、鐘、ハープ2、弦楽

悲い恋の物語に自身を重ね
アレクサンダー・
フランツ・ツェムリンスキ

Alexander von Zemlinsky (1871-1942)

ツェムリンスキは28歳の時、自作のオペラの初演が成功して注目されるようになります。初演の指揮を担ったのは、当時指揮者としても名を馳せていた先輩作曲家マーラー。そのころ、ツェムリンスキには恋する人がいました。アルマ・シントラー。彼の作曲の弟子でした。彼女との結婚を望んだものの、アルマは結局ツェムリンスキの元を去り、マーラーと結婚してしまうのです。《交響詩「人魚姫」》が作曲されたのは、それから間もなくのこと。王子と結ばれることのなかった人魚姫の物語に、ツェムリンスキは自身の恋の結末を重ね合わせたのでした。

A
2025 DECEMBER
[第2051回]



PROGRAM

B

第2052回

サントリーホール

12/4 木 7:00pm

12/5 金 7:00pm

指揮	ファビオ・ルイージ プロフィールはp. 9
ピアノ	トム・ボロー*
オルガン	近藤 岳
コンサートマスター	川崎洋介

藤倉 大

管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー
～ピエール・ブーレーズの思い出に～
(2025) [NHK交響楽団委嘱作品／世界初演] [16']

フランク

交響的変奏曲*[15']

—休憩(20分)—

サン・サーンス

交響曲 第3番 ハ短調 作品78
「オルガンつき」[35']

- I アダージョ—アレグロ・モデラート
—ポーコ・アダージョ
II アレグロ・モデラート—プレスト
—アレグロ・モデラート—プレスト
—マエストーソ—アレグロ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)

トム・ボロー(ピアノ)



© Michael Pawlik

25歳の新鋭トム・ボローが、颯爽とN響に登場。ファビオ・ルイージとは2024年、デンマーク国立交響楽団とベートーヴェンでの共演もあり、このたびフランク晩年の《交響的変奏曲》での再会に期待が高まる。今年9月、広上淳一指揮オーケストラ・アンサンブル金沢との日本デビューに続く再来日となる。

2000年、テルアビブに生まれ、5歳からピアノをはじめる。テルアビブ大学ブッフマン・メータ音楽校でトマーノ・レフに師事、マレー・ペライアからも定期的に教えを受けている。アンドラーシュ・シフ、クリストフ・エッセンバッハ、リチャード・グード、メナヘム・プレスラーのマスタークラスも受講している。

イスラエル国内のコンクールで次々と優勝。2019年に急遽代役を務めたイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団との共演の成功をきっかけに、欧米の名だたるオーケストラや音楽祭に招かれようになる。BBCニュー・ジェネレーション・アーティストにも選ばれ、2022年にBBCプロムスにも出演。2024年から2026年にかけてサンパウロ交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスも務めている。

[青澤隆明／音楽評論家]

近藤 岳(オルガン)



© 原田史朗

オルガニスト、作編曲家として幅広く活躍する近藤岳が、ソリストとしてN響とサン・サーンスの堂々たる大曲《交響曲第3番》に臨む。

東京藝術大学で作曲とオルガンを学んだ後、同大学大学院修士課程音楽研究科(オルガン)を修了。これまでに作曲を野田暉行、川井学、永富正之、尾高惇忠、オルガンを今井奈緒子、廣野嗣雄に師事。

2006年文化庁新進芸術家海外研修員としてフランスに留学し、当時パリ・ノートルダム寺院の正オルガニストを務めていたフィリップ・ルフェーブルにオルガンと即興演奏を師事した。

ミューザ川崎シンフォニーホールのホールオルガニストを2004年の開館当初からフランス留学をはさんで2018年春まで務めた。2022年には横浜みなとみらいホールの2代目ホールオルガニストに就任。自作自演や作品初演でも活躍する。NHK-BSやFMをはじめとする放送番組や、レクチャー・コンサートへの出演も多く、やわらかな語り口とパーソナリティーで愛されている。編著書に『オルガン奏法——パイプでしゃべろう！パイプで歌おう！』。東京藝術大学でオルガン、国立音楽大学で作曲理論の教鞭も執っている。日本オルガニスト協会会員。

[青澤隆明／音楽評論家]

母国イタリアの作曲家を中心に現代音楽の初演も積極的に手がけるファビオ・ルイージが、NHK交響楽団の委嘱作品である藤倉大の新作を初演する。ロンドンを拠点に国際的に活躍する藤倉の作品と、オルガニストでもあるフランス語圏の作曲家、フランクとサン・サーンスの1880年代の名曲を組み合わせるプログラミングの巧みさに、どのような化学反応が起きるのか、期待が高まる。その共通点をあえて言葉で表すなら、「混ざり合う領域」となるだろうか。

藤倉 大

管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー ～ピエール・ブーレーズの思い出に～(2025) [NHK交響楽団委嘱作品／世界初演]

雲を見て海を思う。藤倉大(1977～)自身のエッセイによると、《オーシャン・ブレイカー》は、彼がロンドンのギフトショップで見つけた雲の本にインスピレーションを受けて書かれた。雲海という言葉があるように、雲と海はたしかにとても近い。ただ藤倉の音楽作品には、拡大レンズで粒子の動きにまで迫るような物理学的魅力がある。

藤倉の作品は、これまでに尾高賞を4度受賞し、NHK交響楽団によって特別公演 Music Tomorrow の枠内でいずれも演奏されている。NHK交響楽団からの委嘱作品としては2作目(1作目は共同委嘱の《インフィニット・ストリング》)となる本作は、藤倉が敬愛するピエール・ブーレーズの思い出に捧げられている。作曲家自身が「オーケストラのための協奏曲」と性格づけているように、すべての楽器が主役となり、引き立て役となりうる。各音は予想外の動きをするかもしれないし、音の重なり合いから思わぬ光が差し込むかもしれない。音による波動にいかなる美を見出すかは、聴き手自身に委ねられている。

作曲年代	2024～2025年
初演	2025年12月4・5日、東京、サントリーホールにて、指揮ファビオ・ルイージ、NHK交響楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ3)、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、ヴィブラフォーン、弦楽

フランク

交響的変奏曲

セザール・フランク(1822～1890)は現ベルギーのリエージュに生まれた。パリの教会でオルガニストを務めていたフランクの作曲活動が日の目を見るのは、普仏戦争でフランス

が敗北した後、1871年に国民音楽協会が設立されて以降のことである。作曲家・鍵盤楽器奏者のカミーユ・サン・サーンスと、声楽家のロマン・ビュシーヌが中心となって設立したこの音楽協会は、フランクを含めてフランスの作曲家の名作を数多く世に送り出したが、その運営はパリのサロン文化やパトロンに支えられていた。なかでも、もっとも重要なパトロンのひとつが、ピアノ会社のプレイエルだった。

プレイエル社のサロンは国民音楽協会創立時から、演奏会場として利用されていた。1873年から、協会はオーケストラを伴う演奏会を開始したため、プレイエルも1874年から、より広いコンサート・ホール（プレイエル）を提供し、主要な会場となった。1886年にフランクの《交響的変奏曲》が初演されたのも、このプレイエル・ホールである。ピアノ独奏は、当時ピアニストとして活躍していたルイ・ディエメール（1843～1919）が務めた。

ピアノ協奏曲ではなく、ピアノ独奏を含む交響的変奏曲という独特的の編成には、プレイエルのサロン的性格も影響を与えているのかもしれない。また変奏曲とはいえ、はっきりと主題と変奏に分かれているわけではない。ピアノが最初に奏でる、濃い翳りをもつ4小節の楽想が、全体に通底する主要主題（テーマ）である。曲を開始するオーケストラの付点リズムも特徴的だが、実質は同じ要素（半音+増2度）を用いた同族の主題である。ピアノ独奏はたっぷりと主要主題を聴かせたのち、親しみやすい旋律を和声化した第2の主題を奏で始める。これも事前にオーケストラが予告していた楽想である。これら2つの主題はその後チェロに引き継がれ、幻想的な聴かせどころとなる。ピアノの長いトリルから始まる快活なフィナーレでは、主要主題が長調化してスタッカートに彩られ、別の楽章が始まつたかのようだ。オルガニストらしい、即興的な展開が魅力の作品である。

作曲年代	1885年
初演	1886年5月1日、パリ、国民音楽協会（プレイエル・ホール）にて、作曲家自身の指揮、ピアノ独奏 ルイ・ディエメール
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦楽、 ピアノ・ソロ

サン・サーンス

交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」

国民音楽協会の創立にかかわったカミーユ・サン・サーンス（1835～1921）は、1886年に、共同創立者ビュシーヌと共に同協会を脱退する。この年にロンドンで初演されたのが、大オルガンとオーケストラが共演する、異例の《交響曲第3番「オルガンつき」》である。フランクが《交響的変奏曲》を国民音楽協会で初演した18日後のことだった。

サン・サーンスはパリの権威あるマドレーヌ教会で、1877年まで20年間にわたりオルガニストを務めた。そこには、19世紀フランスのオルガン建造家カヴァイエ・コルが製作し

た交響的なオルガンが備えられており、このオルガンは、さまざまなストップの種類によって、1台で交響曲のような演奏を可能とするものだった。サン・サーンスは1878年のパリ万国博覧会で、トロカデロ宮へのカヴァイエ・コルのオルガン設置と、オルガン・コンサートの実現に尽力した。

世俗ホールにおける大オルガンの設置は、パリよりもロンドンが先駆けである。サン・サーンスは、1871年に設置されたロンドンのアルバート・ホールにおけるオルガンについても詳報し、さらに1879年には、ロンドンのセント・ジェームズ・ホールのオルガンを、フィルハーモニー協会管弦楽団の演奏会で演奏している。この時は、自作の《ピアノ協奏曲第2番》と、バッハのオルガン曲《前奏曲とフーガ イ短調》を演奏したという記録が残っている。1885年にこのフィルハーモニー協会から新たな管弦楽曲の作曲依頼を受けたサン・サーンスが、オルガンとオーケストラが一体となった交響曲という斬新な着想を得たのは、こうした流れがあつてのことだった。

フランスの教会における神秘的なオルガンの効果と、世俗ホールにおける祝祭的なオルガンの効果を熟知していたサン・サーンスは、2楽章形式の交響曲としながらも、各楽章を2部分に分け、その後半部分でオルガンが加わるという、変則的な4楽章構成を採用し、オルガンの2つの効果を対比させた。オルガンは独奏者ではなく、オーケストラの一員である。第1楽章の第2部の始まりは、弱音のオルガンの響き(A♭音)であり、続いてオルガンの和声の上で、弦楽による慈愛に満ちた祈りのような主題が静かに奏でられる。そこに管楽器が加わったときの主題の美しさは格別だ。一方で第2楽章の第2部の始まりは、フェルマータつきの長い休符ののち、堂々たるハ長調の主和音がオルガンの強音で鳴らされる。オーケストラも、シンバルやピアノ連弾が加わるなど、華やかな色彩となるが、そこに参加するオルガンもまた、世俗ホールならではの威厳に満ちたもので、第1楽章との対比が構想の基盤となっている。サン・サーンスのオルガンに対する深い知識と愛が、この傑作交響曲を存在せしめたと言っても過言ではない。

作曲年代	1886年
初演	1886年5月19日、ロンドン、ロイヤル・フィルハーモニー協会(セント・ジェームズ・ホール)にて、作曲家自身による指揮、ロンドン・フィルハーモニー協会管弦楽団
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、オルガン1、ピアノ1(4手連弾)、弦楽

《オーシャン・ブレイカー》の創作スケッチ ——新作の世界初演によせて

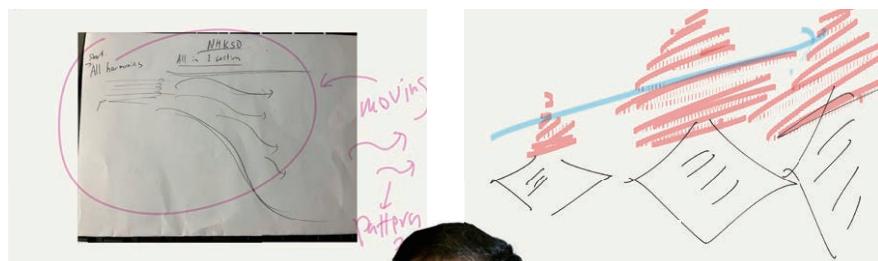
僕はかなり変わった作曲家なのでしょう。管弦楽作品《Glorious Clouds》はバクテリアについてですが、今度の《オーシャン・ブレイカー》は、タイトルとは裏腹に、実は雲についてなのです。

この作品のインスピレーションは、ロンドンのギフトショップで見つけた雲に関する本から得ました。その本はおそらく子ども向けのもので、さまざまな雲の形の美しいイラストが満載でした。しかし、僕が最も魅了されたのは、Fluctusと呼ばれる雲の種類でした。この雲は、上部の風が下部の風よりも大幅に速い場合に波状にうねる、海の波に似た雲です。珍しい現象のようです。

僕はこのイメージに強く惹きつけられました。特に、このオーケストラ作品にはすでに無重力感と流動的な動きが感じられていた

からです。同時に、この作品には「オーケストラのための協奏曲」の精神が息づいています。すべての楽器、チューバでさえもがスポットライトを浴びる瞬間があるのです。この音楽は絶えず焦点を移しながら、エネルギーをセクションからセクションへと伝えていきます。旋律やフレーズは異なる速度で動き、Fluctusの雲が対照的な気流によって形作られる様子を反映しています。

僕はこれまで、多くの楽器（中には珍しい楽器も）のための協奏曲を作曲してきましたが、今こそオーケストラ全体を称える作品を作る時だと感じました。《オーシャン・ブレイカー》はまさにその作品です。音の波が押し寄せ、ぶつかり合い、変化していくオーケストラ協奏曲で、刻々と変化する空のようです。



作曲家・藤倉 大
©Yuko Moriyama / otocoto

大器晩成。フランクはこの言葉を思わせる作曲家です。少年時代のフランクはピアノの才能を發揮し、父親は息子をピアニストとして売り出そうとしました。しかしフランクは作曲家の道を選びます。オルガンの名手でもあったフランクは、教会のオルガニストを務めながら作曲を続けました。地味だけれども中身の詰まった音楽。彼の代表作の多くが60歳を過ぎてから書かれています。63歳の年に作曲された《交響的変奏曲》も、独奏ピアノが時には纖細に、時にはオルガンのように重厚に、オーケストラと一体となって味わい深い音楽を聴かせます。

遅れて花開いた滋味深い音楽

セザール・フランク

César Franck (1822-1890)

B

2025 DECEMBER
[第2052回]



オルガンを弾くフランク。

オルガンとピアノの名手だった彼の《交響的変奏曲》には、美しいピアノ独奏が盛り込まれています

C

第2053回

NHKホール

12/12 金 7:00pm

12/13 土 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ | プロフィールはp.9

ピアノ

エリック・ルー〔第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者〕

コンサートマスター 川崎洋介

C

12 & 13. DEC. 2025

ショパン

ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 作品21
[32']

I マエストーネ

II ラルゲット

III アレグロ・ヴィヴィアーチエ

——休憩(20分)——

ニルセン

交響曲 第4番 作品29「不滅」[36']

I アレグロ

II ポーコ・アレグレット

III ポーコ・アダージョ・クワジ・アンダンテ

IV アレグロ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後よりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは47ページをご覧ください

こちらのQRコードから

アンケートページへアクセスできます



[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)

エリック・ルー（ピアノ）[第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者]



© W. Grzadzinski / NIFC

2025年、第19回ショパン国際ピアノコンクールで優勝。1997年アメリカ合衆国マサチューセッツ州生まれ。これまでにロバート・マクドナルド、ダン・タイ・ソンらに師事した。2015年に17歳という若さで挑んだ第17回ショパン国際コンクールでは第4位に入賞、2018年に20歳で臨んだリーズ国際ピアノコンクールでは優勝を果たした。以来、各国の一流オーケストラや指揮者と共に演奏し、主要ホールでのリサイタルやアルバム・リリースも重ねている。近年ではムーティ指揮シカゴ交響楽団、オールソップ指揮ロンドン交響楽団、アル・リー指揮ボストン交響楽団などと共に演奏し、上海交響楽団とBBCプロムスに出演。その知的で詩情に満ちた解釈により、唯一無二の存在感を放つピアニストとして認められる中、真摯な姿勢で臨んだ今回のコンクールでは、圧倒的に多彩な音色を響かせ、その確かな芸術性が際立った。コンクールのファイナルで演奏したショパンの《ピアノ協奏曲第2番》を、今回はルイージ指揮N響との共演により、緻密で立体的な表現で聴かせてくれることだろう。

【飯田有抄／クラシック音楽ファシリテーター】

Program Notes | 重川真紀

ショパンとニルセン。生きた場所も時代も異なるが、それぞれに祖国の音楽的発展に大きく寄与した作曲家たちである。彼らの代表作を取り上げた本日の演奏会は、両者が作品を通して体現しようとした「祖国への想い」を深く味わうことのできる絶好の機会となるだろう。とりわけショパンのピアノ協奏曲は、この秋にワルシャワで開催されたコンクールの覇者による演奏だ。どのようなショパン像を見せてくれるのか、期待が膨らむ。

ショパン

ピアノ協奏曲 第2番 へ短調 作品21

フレデリック・フランソワ・ショパン（1810～1849）は、故郷ワルシャワで過ごした最後の年である1830年に2つのピアノ協奏曲を書き上げた。本日演奏される《第2番》は、彼の1作目の協奏曲だが、出版された時期の都合で、番号付けが成立順序と逆になっている。

前年のウィーンでの公開演奏会で成功を収め、ピアニスト＝作曲家としての一歩を踏み出したショパンにとって、自作のピアノ協奏曲は不可欠なものだった。そこで書き上げたのが、叙情的な旋律とその装飾的な変奏によってピアノの魅力を最大限に活かす、い

わゆる「ブリランテ様式」の協奏曲である。ショパンのピアノ曲は、19世紀前半のヨーロッパで人気を博したベルカント・オペラの歌唱にしばしば喩えられるが、この協奏曲でもオペラ・アリアを思わせるような流麗かつ技巧的なパッセージが、終始ピアノによって「歌われる」。その分、管弦楽は二次的にならざるを得ないのだが、初演後の批評によれば「どの「トゥッティ」も最良のバランスを保って作曲され、目立たないながらも必然性をもってソロ・パートと結びついている」と好意的に受け止められたようだ。初演に先立ち、自宅で2度の試演会を行ったというエピソードが示す通り、初めて手がけた協奏曲にかける若きヴィルトゥオーソの意気込みが感じられる作品である。

全体は3つの楽章からなる。第1楽章(マエストロ)はソナタ形式に則っているが、2つの主要主題(ヘ短調と変イ長調)が提示部と再現部で同じ調性で現れるなど、調の組み立ては定石どおりではない。第2楽章(ラルゲット)は、ショパンいわく「理想の人」の思い出から生まれた緩徐楽章。ピアノが叙情的な旋律をノクターン風に奏する。なお、ここで言われる「理想の人」は、当時音楽院で声楽を学んでいたコンスタンツィア・グワトコフスカとされることが多いが、真相はわかっていない。第3楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ)は、マズルカ風の諸主題による躍動感に満ちた音楽。なかでも弦のコル・レーニョ(弓の木部で弦をたたく)を伴う中間部は、野趣に富んでいる。後半、ホルンがこの主題を奏でるところから曲はコーダに入り、ピアノの無窮動的なパッセージとともに華やかに終わる。

作曲年代	1829～1830年
初演	1830年3月17日、ワルシャワ、テアトル・ナロドーヴィ(国民劇場)にて、作曲家自身の独奏、カロル・クルビンスキ指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽、ピアノ・ソロ

ニルセン

交響曲 第4番 作品29「不滅」

デンマークの作曲家カール・ニルセン(1865～1931)は生涯で6つの交響曲を書いた。それらの作品には、独自の世界観にもとづくユニークなタイトルが付されているのだが、《第4番》もニルセン自身によって「Det Uudslukkelige」と名付けられている。日本では「不滅」と訳されるが、厳密にいえば「滅ぼし得ざるもの」という意味だ。

このタイトルが何を示唆するのかは、作曲家自身の言葉がその手がかりとなるだろう。友人宛の手紙(1914年7月24日付)には、着手してまもないこの交響曲について次のようにある。「(《第4番》は)我々が生と呼ぶ概念、あるいはむしろそのもつとも中心的な意味においての「生」から人が感じとり、考え出すすべてのものを表すものになるだろう。つまり、生きて動こうとする意志を持つものすべてのことだ。そのすべてがこの概念の中に含

まれうる。そして、ほかの芸術以上に、音楽とは生命の表出なのだ」

ニルセンがこれほど強く「生」にこだわったのには、同年に勃発した第1次世界大戦とそれに伴う祖国の危機や、家庭・仕事でのさまざまな問題などが背景にあったようだ。楽曲の特徴をなす猛烈なエネルギーの噴出は、あるいは現実世界の闘争や、彼の内面世界の葛藤を象徴しているのかもしれない。おそらく、ニルセンにとってそれらすべては「生」と結びつくものであり、彼の考えでは音楽こそ「生」そのもの、さらに言えば「生」と同じく「不滅」の、言いかえれば「滅ぼし得ざるもの」だったのだ。

曲は4つの部分からなるが、ひとつながらの単一楽章のような形になっている。ニルセンによれば、「ひたすら生命と運動、それもさまざま、非常にさまざま、でもまとまりがあって、あたかもひとつの流れの中で大きなひとつの動きとして常に流れていくようなもの」が作品の原型だという。

第1部はソナタ形式のアレグロ楽章に相当し、2つの主要主題が順に提示される。第1主題は調性感が薄く、モティーフに内在するリズムや運動性が推進力となっているのに対し、イ長調の第2主題は三度音程からなる穏やかで旋律的なもの。曲は断片的な動機の集合体からなる展開部を経て2つの主題が回帰する再現部に入る。続く第2部は木管楽器が中心となる牧歌的な音楽で、ニルセンの故郷フューン島の情景を思い起こさせる。中間部では、ヴァイオリンのピチカートを背景にして舞曲風の素朴な旋律が登場する。緩徐楽章に相当する第3部は、弦楽器が奏する哀歌にティンパニが呼応しながら曲が進んでいくが、3連符の連続からなる新たな動機によってしばしば中断される。弦楽器の細かいパッセージに続く第4部は晴れやかな3拍子の音楽で始まる。曲は2組のティンパニが怒濤の連打で繰り広げる「対決」を経て、再び登場した第1部の第2主題でクライマックスを築いたのち輝かしく閉じられる。

1916年に完成されたこの作品は、その驚くべき音楽的構成と類例のない表現力の強さで、彼の代表作のひとつとしてのみならず、デンマーク文化遺産のひとつにも数えられている。

作曲年代	1914～1916年
初演	1916年2月1日、コbenhavn音楽協会にて。作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ(2組)、弦楽

祖国とふれんぐの想いがふわりと香る
フレデリック・フランソワ・ショパン
 Frédéric François Chopin (1810-1849)

C
 2025 DECEMBER
 [第2053回]



ショパンは、《ピアノ協奏曲第2番》の〈第2楽章〉を「理想の人のことを思って作曲した」と親友への手紙に書いています。19歳の彼は、思いを寄せる女性に出会ったのです。たしかに、この曲の甘く美しいメロディは、好きになった人の面影を夢見るロマンチックな気分そのもの。親友への手紙のなかに、肝心のその人の名前は書かれていません。恋こがれた「理想の人」への想いは結局成就することなく、その後ショパンはワルシャワからウィーンへと旅立ちます。《ピアノ協奏曲第2番》は、いわば故郷での青春のまっただ中で生まれた作品でした。

2026年1月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

よい指揮者とは？ リハーサルが効率的であること、棒が正確でわかりやすいことなど、オーケストラにとって好ましい条件はいくつかあるが、何より大切なのは、聴き手にいかに説得力のある音楽を届けられるかである。仕事の進め方と芸術的なアウトプットの両面において、トゥガン・ソヒエフほどバランスの取れた指揮者は、なかなかいないよう思う。世界中からオファーが絶えないのも当然であろう。今回も変化に富んだ3プログラムをお送りする。

ついに始動！ ソヒエフのマーラー

長年オペラに時間を割いてきたソヒエフは、2022年にボリショイ劇場をやめてから、シンフォニーに本腰を入れるようになった。[Aプログラム]のマーラー《交響曲第6番》で、いよいよその成果が示される。初演のあとに削除されたとはいえ、運命的なテンパニのリズムや、終楽章のハンマーの打撃など、避けられない破滅を予感させるこの曲には、やはり「悲劇的」の副題が似つかわしい。正味80分の大曲では、全体を見渡す周到な計算が必要となる。深い呼吸で音楽を紡いでいくソヒエフの持ち味が発揮されるに違いない。

もともとの第2楽章〈スケルツォ〉、第3楽章〈アンダンテ・モデラート〉は、改訂を経て、順

序が入れ替わった。以前は初版の順で演奏したソヒエフだが、今回はアンダンテ～スケルツォの順を採用する。力強い第1楽章のあとに明確なコントラストをつけたい、第1楽章と同じ主題を持つスケルツォをフィナーレの直前に置くことで、この主題を強調したい、といった理由によるのだそうだ。「何事も挑戦」が彼のモットーである。

進化を続ける 得意のロシア音楽

ソヒエフによれば、[Bプログラム]の《交響曲第5番》は、マーラーと対照的に「4つの楽章が独立したストーリーを持つ作品」である。母国語を話すように自然なプロコフィエフの語り口、そのユーモアやアイロニーに、ソヒエフは理屈抜きで共感してきた。この曲は特にお気に入りで、2013年にもN響と演奏しているが、その後フランスで再演を重ね、理解がさらに深まったという。柔らかな音色や色彩感が加わり、いっそう魅力を増していることだろう。

ショスタコーヴィチ《ピアノ協奏曲第2番》にも、ユーモアやアイロニーが詰まっている。スタッカートの連打や高速オクターヴなど、難所を次々クリアしながら、同時に諧謔味も表現するのは、至難の業ではなかろうか。松田華音はN響常連のソリストで、ロシア音楽に定評がある。

『前奏曲「モスクワ川の夜明け」』では、雄大な自然の光景に、聖歌風のメロディが溶け込んでいく。ムソルグ斯基の原曲の素朴さを活かしたショスタコーヴィチ編曲版は、近年ますます評価が高い。

想像の翼を羽ばたかせて

【Cプログラム】前半は、フランスの象徴詩に基づく2曲。『牧神の午後への前奏曲』は、マラルメが描く牧神パンの白昼夢。フルートの官能的な旋律が、聴き手を幻想の世界に引きこむ。デュティユー『チェロ協奏曲』は、ボードレールの詩集『悪の華』から靈感を得ている。恋人の髪を媒介に、詩人は遠い異国や過ぎ去った時間に、想像の翼を羽ばたかせる。う

ねるようなチェロは髪そのものでもあり、そこから広がるさまざまなイメージの象徴でもある。ジュネーヴ国際音楽コンクールの覇者、上野通明が、20世紀の古典に挑む。

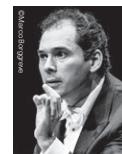
ロシア民話もイマジネーションの宝庫である。『サルタン皇帝の物語』は、プーシキンの童話詩が原作。宮殿や魔法の都など、きらびやかな情景に彩られた組曲の第2曲は、樽詰めされた王妃と王子が海を漂うシーン。『シェエラザード』を書いた元海軍士官ならではの音楽だ。おなじみの『火の鳥』では、〈王女たちの踊り〉や〈子守歌〉に、メロディをたっぷり歌わせるソヒエフの真骨頂が現れるだろう。

【西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹】

A 1/17 土
6:00pm
1/18 日
2:00pm

NHKホール

マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」
指揮:トゥガン・ソヒエフ



B 1/29 木
7:00pm
1/30 金
7:00pm

サントリーホール

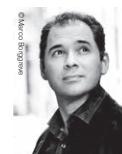
ムソルグ斯基(ショスタコーヴィチ編)／
歌劇「ホヴァンシチナ」—前奏曲「モスクワ川の夜明け」
ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 へ長調 作品102
プロコフィエフ／交響曲 第5番 変口長調 作品100
指揮:トゥガン・ソヒエフ
ピアノ:松田華音



C 1/23 金
7:00pm
1/24 土
2:00pm

NHKホール

ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
デュティユー／チェロ協奏曲「遙かなる遠い国へ」
リムスキー・コルサコフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)
指揮:トゥガン・ソヒエフ
チェロ:上野通明



チケットのご案内(定期公演 2025年9月~2026年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10~44%お得です! (一般料金の場合。ユースチケットでは最大57%お得です。割引率は公演や券種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2025年7月6日[日](定期会員先行) / 2025年7月13日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2025年10月14日[火](定期会員先行) / 2025年10月17日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2026年2月10日[火](定期会員先行) / 2026年2月14日[土](一般)

料金(税込)

年間会員券(9回)	S	A	B	C	D	
Aプログラム	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
Cプログラム	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム	一般	¥91,800(¥10,200)	¥76,500(¥8,500)	¥61,200(¥6,800)	¥49,725(¥5,525)	¥42,075(¥4,675)
	ユースチケット	¥45,900(¥5,100)	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥24,858(¥2,762)	¥21,033(¥2,337)

シーズン会員券(3回)	S	A	B	C	D	
Aプログラム	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
Cプログラム	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報でご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月 2025年7月23日[水](定期会員先行) / 2025年7月27日[日](一般)
	12・1・2月 2025年10月22日[水](定期会員先行) / 2025年10月26日[日](一般)
	4・5・6月 2026年2月19日[木](定期会員先行) / 2026年2月23日[月・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円~で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券とともにご利用いただけます。料金は各公演の情報でご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み	WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp	
	N響ガイド TEL 0570-02-9502 営業時間: 10:00am~5:00pm 定休日: 土・日・祝日	<ul style="list-style-type: none">東京都内の主催公演開催日は曜日に問わらず10:00am~開演時刻まで営業発売初日の土・日・祝日は10:00am~3:00pmの営業電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター | 最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

2025-26定期公演プログラム

2025
12

A	第2051回 11/29(土) 6:00pm 11/30(日) 2:00pm
	※12月定期公演Aプログラムは 11月に開催いたします。 NHKホール

ロマンとメルヘンにあふれる《人魚姫》の世界
ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77
ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」
指揮: ファビオ・ルイージ
ヴァイオリン: レオニダス・カヴァコス

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B	第2052回 12/4(木) 7:00pm 12/5(金) 7:00pm
	サントリーホール

オーケストラとオルガンが名ホールで絢爛に双鳴するひととき
藤倉 大／管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー
～ビエール・フーレーの思い出に～(2025)
[NHK交響楽団委嘱作品／世界初演]
フランク／交響的変奏曲*
サン・サーンス／交響曲 第3番 ハ短調 作品78「オルガンつき」
指揮: ファビオ・ルイージ ピアノ: トム・ボローク オルガン: 近藤岳

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C	第2053回 12/12(金) 7:00pm 12/13(土) 2:00pm
	NHKホール

ニルセン最高峰の交響曲をルイージ入魂の指揮で味わう
ショパン／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品21
ニルセン／交響曲 第4番 作品29「不滅」
指揮: ファビオ・ルイージ
ピアノ: エリック・ルー(第19回ショパン国際ピアノコンクール優勝者)

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026
01

A	第2054回 1/17(土) 6:00pm 1/18(日) 2:00pm
	NHKホール

ソヒエフ、満を持してN響でマーラーを初披露

マーラー／交響曲 第6番 イ短調「悲劇的」

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

B	第2056回 1/29(木) 7:00pm 1/30(金) 7:00pm
	サントリーホール

お家芸のプロコフィエフ《第5番》を13年振りにN響で指揮
ムソルグ斯基ー(ショスタコーヴィチ編)／
歌劇「ホヴァンシチナ」前奏曲「モスクワ川の夜明け」
ショスタコーヴィチ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ長調 作品102
プロコフィエフ／交響曲 第5番 変ロ長調 作品100

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C	第2055回 1/23(金) 7:00pm 1/24(土) 2:00pm
	NHKホール

夢幻と高揚に誘う—フランク・ロシアのナラティブな作品たち
ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
デュティイー／エロ協奏曲「通かなる遠い国へ」
リムスキー・コラーソフ／組曲「サルタン皇帝の物語」作品57
ストラヴィン斯基／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)
指揮: トゥガン・ソヒエフ ピアノ: 松田華音

一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026
02

A	第2057回 2/7(土) 6:00pm 2/8(日) 2:00pm
	NHKホール

名門歌劇場で存在感を放つ ショルダンのワーグナー
シューマン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」
ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」
—ジークフリートのラインの旅」「ジークフリートの葬送行進曲」
「ブリュンヒルデの自己犠牲」*

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

B	第2059回 2/19(木) 7:00pm 2/20(金) 7:00pm
	サントリーホール

待望の再登場! フルシヤのドヴォルザーク&ブームス
ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53
ブームス／セレナード 第1番 ニ長調 作品11

一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

C	第2058回 2/13(金) 7:00pm 2/14(土) 2:00pm
	NHKホール

創立100年に問う N響設立者・近衛の「展覧会の絵」
N響100年特別企画 郡人作曲家シリーズ
コダーリ／ハンガリー民謡「くじく」による変奏曲
フンメル／トランペット協奏曲 ホ長調
ムソルグ斯基ー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」

一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

A	NHKホール		B	サントリーホール		C	NHKホール	
	■ 開場5:00pm 開演6:00pm	■ 開場1:00pm 開演2:00pm		■ 開場6:20pm 開演7:00pm	■ 開場6:20pm 開演7:00pm		■ 開場6:00pm 開演7:00pm	■ 開場1:00pm 開演2:00pm
2026 04	A	第2060回 4/11 [土] 6:00pm 4/12 [日] 2:00pm	NHKホール	ブルックナーの絶筆に 孤高の中に屹立する精神を見る ハイドン／シェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob. VIIb-1 ブルックナー／交響曲 第9番 ニ短調 指揮:ファビオ・ルイージ チェロ:ヤン・フォーグラー	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400		
	B	第2061回 4/16 [木] 7:00pm 4/17 [金] 7:00pm	サントリーホール	モーツアルトとマーラーに通底する絶対美の深淵に触れる モーツアルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622 マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調 指揮:ファビオ・ルイージ クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750		
	C	第2062回 4/24 [金] 7:00pm 4/25 [土] 2:00pm	NHKホール	下野がナビゲートする20世紀日本名曲の旅 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26 伊福部昭／交響詩 ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」作品33a 指揮:下野竜也 ピアノ:反田恭平	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000		
2026 05	A	第2064回 5/23 [土] 6:00pm 5/24 [日] 2:00pm	NHKホール	ドイツ音楽の深い洞察者と奏でるブームス・プログラム ブームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 イ短調 作品102 ブームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 作品25 指揮:ミヒャエル・サンデルリンク ヴァイオリン:クリスティアン・テツラフ チェロ:タニーヤ・テツラフ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000		
	B	第2063回 5/14 [木] 7:00pm 5/15 [金] 7:00pm	サントリーホール	「ヤマカズ2」が振る元祖ヤマカズ そして1930年代田独作品の諸相 N響100年特別企画 邦人作曲家シリーズ 山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 ハルトマン／葬送協奏曲* 須賀田礎太郎／交響的序曲 作品6 ヒンデミット／交響曲「画家マチス」 指揮:山田和樹 ヴァイオリン:キム・スヤン*	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750		
	C	第2065回 5/29 [金] 7:00pm 5/30 [土] 2:00pm	NHKホール	旧ソ連・ラトビア出身の気鋭が解き明かす 謎多きショスタコーヴィチ《第4番》の真価 ヴァスクス／NHK交響楽団ほか国際共同委嘱作品 【タイトル未定／日本初演】 ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番 ハ短調 作品43 指揮:アンドリス・ボーガ	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000		
2026 06	A	第2067回 6/13 [土] 6:00pm 6/14 [日] 2:00pm	NHKホール	ニューヨーク・フィルを率いたズヴェーテン 待望のN響初登場 ワーグナー／楽劇「ニュルンベルクのマイスターインガ」前奏曲 モーツアルト／ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453 バルトーク／管弦楽のための協奏曲 指揮:ヤーフ・ヴァン・ズヴェーテン ピアノ:コンラッド・タオ	一般 S ¥11,000 A ¥9,500 B ¥7,600 C ¥6,000 D ¥5,000 E ¥3,000	ユースチケット S ¥5,500 A ¥4,500 B ¥3,500 C ¥2,800 D ¥1,800 E ¥1,400		
	B	第2066回 6/4 [木] 7:00pm 6/5 [金] 7:00pm	サントリーホール	ドゥネーヴが編む「夏」と「海」をめぐるフランス名曲選 オネゲル／交響詩「夏の牧歌」 ベルリオーズ／歌曲集「夏の夜」作品7 イベール／寄港地 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ メゾ・ソプラノ:ガエル・アルケーズ	一般 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,000 C ¥6,500 D ¥5,500	ユースチケット S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,250 D ¥2,750		
	C	第2068回 6/19 [金] 7:00pm 6/20 [土] 2:00pm	NHKホール	尾高のリリズムと相性抜群の北国の大作たち HIMARI, N響定期に初登場 シベリウス／アンドante・フェスティーヴォ シベリウス／ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 作品47 ラフマニノフ／交響曲 第3番 イ短調 作品44 指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI	一般 S ¥10,000 A ¥8,500 B ¥6,500 C ¥5,400 D ¥4,300 E ¥2,200	ユースチケット S ¥5,000 A ¥4,000 B ¥3,100 C ¥2,550 D ¥1,500 E ¥1,000 (料金はすべて税込)		

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

速報 2026-27定期公演プログラム(2026年9月~2027年6月)

2026
09

A 第2069回
9/12 [土] 6:00pm
9/13 [日] 2:00pm

N響100年特別企画
フランス・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」

指揮: フabio・ルイージ
ヨハネ(テノール):ミヒャエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス
ソプラノ:迫田美帆 メゾ・ソプラノ:藤井麻美 テノール:伊藤達人 バス:加藤宏隆
合唱:新国立劇場合唱団

B 第2070回
9/17 [木] 7:00pm
9/18 [金] 7:00pm

ウェーバー／歌劇「オペロン」序曲
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)

サントリーホール

指揮: フabio・ルイージ
ヴァイオリニン: ウィリアム・ハーデリヒ

C 第2071回
9/25 [金] 7:00pm
9/26 [土] 2:00pm

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1
ベートーヴェン／交響曲 第1番 ハ長調 作品21
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

NHKホール

指揮: フabio・ルイージ

2026
10

A 第2072回
10/17 [土] 6:00pm
10/18 [日] 2:00pm

ブルックナー／交響曲 第5番 変口長調

NHKホール

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット

B 第2073回
10/23 [金] 7:00pm
10/24 [土] 2:00pm

10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。
2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。
同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは
2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2
ベートーヴェン／「エグモント」序曲
ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93
ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

NHKホール

指揮: クリストフ・エッシュンバッハ

2026
11

A 第2074回
11/7 [土] 6:00pm
11/8 [日] 2:00pm

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 作品19
ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65

NHKホール

指揮: ウガン・ソヒエフ
ヴァイオリニン: 神尾真由子

B 第2076回
11/19 [木] 7:00pm
11/20 [金] 7:00pm

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキイ／バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71(抜粋)

サントリーホール

指揮: トゥガン・ソヒエフ
ピアノ: アレクサンドル・カントロフ

C 第2075回
11/13 [金] 7:00pm
11/14 [土] 2:00pm

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3
ベートーヴェン／序曲「コリオラン」
ベートーヴェン／交響曲 第2番 ニ長調 作品36
ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

NHKホール

指揮: トゥガン・ソヒエフ

速報 2026-27定期公演プログラム(2026年9月~2027年6月)

2026
12

A

第2077回
11/28(土) 6:00pm ファリヤ／バレエ組曲「三角帽子」第2番
11/29(日) 2:00pm ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14
ほか

※12月定期公演Aプログラムは
11月に開催いたします。
NHKホール

指揮:シャルル・デュトワ
ピアノ:マルタ・アルゲリッチ

B

第2079回
12/10(木) 7:00pm モーツアルト／歌劇「魔笛」序曲
12/11(金) 7:00pm スルンカ／チェロ協奏曲[NHK交響楽団100年記念委嘱作品／世界初演]
メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

指揮:マキシム・エメリヤニチエフ
チェロ:ニコラ・アルトシュテット

C

第2078回
12/4(金) 7:00pm N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4
12/5(土) 2:00pm ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60
ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:シャルル・デュトワ
※ベートーヴェン(交響曲第9番「合唱つき」)は、2026年末の「ベートーヴェン『第9』演奏会」で演奏予定です(指揮:マレク・ヤノフスキ)。

2027
01

A

第2080回
1/16(土) 6:00pm マーラー／交響曲 第9番 ニ長調
1/17(日) 2:00pm

NHKホール 指揮:ファビオ・ルイージ

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。
2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。
同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは
2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。

C

第2081回
1/22(金) 7:00pm ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1
1/23(土) 2:00pm ソレンセン／夕暮れの大地 [日本初演]
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 ハ長調 作品15
ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」

指揮:ファビオ・ルイージ
ピアノ:アレッサンドロ・タヴェルナ

NHKホール パッハ(ウェーベルン編)／「音楽のささげもの」BWV1079—6声のリチュエルカル
マーラー／リュックケルトによる5つの歌
シェンベルク／室内交響曲 第2番 作品38
シーベルト／交響曲 第7番 口短調 D.759「未完成」

指揮:アントニオ・マナコルダ バリトン:アンドレ・シュエン

2027
02

A

第2082回
2/6(土) 6:00pm ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2
2/7(日) 2:00pm マーラー／リュックケルトによる5つの歌
シェンベルク／室内交響曲 第2番 作品38
シーベルト／交響曲 第7番 口短調 D.759「未完成」

指揮:アントニオ・マナコルダ バリトン:アンドレ・シュエン

B

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは
サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。
2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。
同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは
2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。

C

第2083回
2/12(金) 7:00pm ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2
2/13(土) 2:00pm シューマン／歌劇「ゲノヴェーア」序曲
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19
尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9
バヌフニク／交響曲 第2番「悲歌」

指揮:尾高忠明
ピアノ:イム・ウンチャン

A	NHKホール		B	サントリーホール		C	NHKホール	
	■ 開場5:00pm 開演6:00pm	■ 開場1:00pm 開演2:00pm		■ 開場6:20pm 開演7:00pm	■ 開場6:20pm 開演7:00pm		■ 開場6:00pm 開演7:00pm	■ 開場1:00pm 開演2:00pm
2027 04	A	第2084回 4/10 [土] 6:00pm 4/11 [日] 2:00pm	NHKホール	メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64 指揮:ファビオ・ルイージ ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス				
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン（2027年9月～2028年6月、全9回予定）にご継続いただけます。				
2027 05	C	第2085回 4/23 [金] 7:00pm 4/24 [土] 2:00pm	NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3 ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37 チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ ショスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変ホ長調 作品70 指揮:エリム・チャン ピアノ:アリス・紗良・オット				
	A	第2086回 5/8 [土] 6:00pm 5/9 [日] 2:00pm	NHKホール	グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16 ステンハンマル／交響曲 第2番 ハ短調 作品34 指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:デニス・コジュヒン				
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン（2027年9月～2028年6月、全9回予定）にご継続いただけます。				
2027 06	C	第2087回 5/21 [金] 7:00pm 5/22 [土] 2:00pm	NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4 リューリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粹) ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 ハ長調 作品58 R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60 指揮:ケント・ナガノ ピアノ:ティル・フェルナー				
	A	第2088回 6/5 [土] 6:00pm 6/6 [日] 2:00pm	NHKホール	モーツアルト／交響曲 第35番 ニ長調 K. 385「ハフナー」 ブルックナー／交響曲 第3番 ニ短調「ワーグナー」 指揮:トゥガン・ソヒエフ				
	B			2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムは サントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。 同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは 2027-28シーズン（2027年9月～2028年6月、全9回予定）にご継続いただけます。				
	C	第2089回 6/18 [金] 7:00pm 6/19 [土] 2:00pm	NHKホール	ベートーヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5 ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」 R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40 指揮:トマス・グッガイス ピアノ:キリル・ゲルシュタイン				

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※料金、発売日等チケットの詳細は2026年3月末に発表予定です。

速報 2026-27 特別公演(一部)

2026-27シーズンで定期公演Bプログラム(サントリーホール)が
開催されない月(2026年10月/2027年1月~2月/2027年4月~6月)に行う、
特別公演のラインアップをご紹介します。

2026/10 | 巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏 東京芸術劇場

10/30 金 7:00pm
ブラームス／交響曲 第2番 ニ長調 作品73
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98

指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット

10/31 土 4:00pm
ブラームス／交響曲 第3番 ヘ長調 作品90
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68

指揮:クリストフ・エッセンバッハ

2027/01 | ルイージ指揮 N響ニューイヤーコンサート NHKホール

1/10 木 3:00pm
ワーグナー／歌劇「リエンチ」序曲
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」*♦
1/11 月 祝 3:00pm
ワーグナー／楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*
ワーグナー／歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」*♦
ワーグナー／歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*
ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降らせ」*♦
J. シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」—序曲 チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」*
レハール／喜歌劇「メリーワイド」—「ヴィリアの歌」*
カールマーン／喜歌劇「伯爵夫人マリーゾア」—「ウィーンによろしく」*♦
J. シュトラウスⅡ世／皇帝円舞曲 作品437
レハール／喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」*♦

指揮:ファビオ・ルイージ

ソプラノ:カミラ・ニールンド*

テノール:クラウス・フロリアン・フォークト*

2027/02 | 初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》 NHKホール

2/20 土 開演時刻未定
2/21 日 開演時刻未定

バッハ／マタイ受難曲 BWV244

指揮:トン・コープマン

福音史家(テノール):ティルマン・リヒディ

イエス(バス/バリト):クラウス・メルテンス

合唱:アムステルダム・バロック合唱団

児童合唱:東京少年少女合唱隊

2027/04-06 | 東京芸術劇場シリーズ | 木 7:00pm 金 7:00pm (各3回) 東京芸術劇場

最高峰の指揮者のタクトで、バレエ音楽の名作やN響メンバーのソロを織り交ぜながらお贈りします。

※セット券(曜日ごとの通し券)の発売を予定しています。

4/15 木 7:00pm フランツ・シュミット／歌劇「ノートルダム」—「間奏曲と謝肉祭の音楽」
4/16 金 7:00pm ヒンデミット／バレエ組曲「気高い幻想」
R. シュトラウス／交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

指揮:ファビオ・ルイージ
チェロ:辻本 玲*

5/13 木 7:00pm ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
5/14 金 7:00pm ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲
タイユフェール／小組曲
ラヴェル／バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番
指揮:沖澤のどか
ハープ:早川りきこ

6/10 木 7:00pm プロコフィエフ／古典交響曲 作品25
6/11 金 7:00pm モーツアルト／4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b
ストラヴィンスキー／バレエ音楽「春の祭典」
指揮:トゥガン・ソヒエフ
オーボエ:中村周平
クラリネット:松本健司
ファゴット:宇賀神広宣
ホルン:今井仁志

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。
※各公演の料金、発売日等チケットの詳細は、決まり次第N響ホームページ等でお知らせいたします。

特別公演

12/8(月)7:00pm | 放送100年 N響×アニメ「青のオーケストラ」スペシャル・コンサート

NHKホール

指揮:キンボー・イシイ

ヴァイオリン:東 亮汰* (劇中で青野 一の演奏を担当) 山田友里恵* (劇中で秋音律子の演奏を担当)

ゲスト:土屋神葉 (佐伯直役) 神谷浩史 (佐久間優介役) 司会:林田理沙 アナウンサー

クリスマス・メドレー (もろびとこぞりて~アヴェ・マリア~ハレルヤ・コーラス/萩森英明編)

ドヴァルザーク/交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」—第4楽章

チャイコフスキイ/バレエ組曲「くるみ割り人形」作品71a—「花のワルツ」

バッハ/2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043から**

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64—第1楽章から*

サン・サンス/歌劇「サムソンとデリラ」—「バッカナール」

芥川也寸志/交響管弦楽のための音楽

料金(税込):一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席6,000円 C席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,000円 C席2,500円

チケット発売日:10月10日(金)10:00am

※N響定期会員の先行販売および割引はございません

主催:NHK / NHK交響楽団

協力:小学館

12/20(木)4:00pm

12/21(金)2:00pm

12/23(火)7:00pm

12/24(水)7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHKホール

指揮:レナード・スラットキン

ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:福井 敬 バリトン:甲斐栄次郎 合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン/交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月19日(金)10:00am

一般 | 9月23日(火・祝)10:00am

※12月23日はNHK / NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団 / NHK・NHK厚生文化事業団(23日公演のみ)

協賛:みずほ証券株式会社 / はごろもフーズ株式会社 / 株式会社明電舎

12/26金 7:00pm | かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:レナード・スラットキン

ソプラノ:中村恵理 メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:福井 敬 バリトン:甲斐栄次郎

合唱:新国立劇場合唱団 オルガン:近藤 岳*

バッハ／前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV552*

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月19日(金)10:00am

一般 | 9月23日(火・祝)10:00am

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぽ生命保険

2/27金 7:00pm | 東京芸術劇場

2/28土 2:00pm | パルテノン多摩

3/1日 3:00pm | 森のホール21(松戸市文化会館)

N響 ドラゴンクエスト・コンサート

～導かれし者たち～

指揮:下野竜也

すぎやまこういち／交響組曲「ドラゴンクエストIV」導かれし者たち

料金(税込):

東京芸術劇場(2/27)、パルテノン多摩(2/28)

一般 | S席11,000円 A席9,000円 B席8,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席5,500円 A席4,500円 B席4,000円

森のホール21(3/1)

一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席7,000円 C席4,000円*

ユースチケット(29歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,500円 C席2,000円*

※定期会員割引は一般料金から10%割引

★森のホール21(3/1)のC席はステージの一部が見えづらい席となります。

チケット発売日:N響定期会員先行 | 12月15日(月)10:00am

一般 | 12月19日(金)10:00am

主催:NHK交響楽団 協力:株式会社スクウェア・エニックス／スギヤマ工房有限会社

3/5(木) 7:00pm | N響大河ドラマ＆名曲コンサート(特別編)

NHKホール

指揮:沖澤のどか 特別ゲスト:高橋英樹

オンド・マルトノ:大矢素子 テノール:工藤和真 薩摩琵琶:友吉鶴心 龍笛:稻葉明徳、嶺綱拓也、岩崎達也

二十五絃箏:中井智弥 尺八:長須与佳 シンセサイザー:篠田元一 電子バーカッション:篠田浩美

男声合唱:慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団 児童合唱:NHK東京児童合唱団 司会:田添菜穂子

[第1部 | 大河ドラマ編]

風林火山(2007／千住明) 豊臣兄弟!(2026／木村秀彬) 独眼竜政宗(1987／池辺晋一郎) 八代將軍吉宗(1995／池辺晋一郎) 春日局(1989／坂田晃一) 源義経(1986／武満徹[坂田晃一編]) 夢千代日記(1981／武満徹)※NHK「ドラマ人間模様」から 竜馬がゆく(1968／間宮芳生) 徳川家康(1983／富田勲) 新選組!(2004／服部隆之)

[第2部 | 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」—「ジークフリートのラインの旅」

イヴァノヴィチ／ワルツ「ドナウ川のさざ波」

スマタナ／交響詩「モルダウ」

料金(税込):一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席7,000円 C席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席3,500円 C席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 12月15日(月)10:00am

一般 | 12月19日(金)10:00am

主催:NHK／NHK交響楽団

お申し込み	WEBチケットN響 https://nhkso.pia.jp	
<p>N響ガイド TEL 0570-02-9502</p> <p>営業時間: 10:00am ~ 5:00pm 定休日: 土・日・祝日</p> <p>● 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am ~ 開演時刻まで営業 ● 発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pm の営業 ● 電話受付のみの営業</p>		

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

海外公演

4/29(水) 7:30pm | 日本・シンガポール外交関係樹立60周年 NHK交響楽団 シンガポール公演

エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ コンサートホール

指揮:下野竜也(NHK交響楽団 正指揮者)

ピアノ:反田恭平

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント

プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

R.シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」作品20

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—4つの海の間奏曲 作品33a

主催:エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ

各地の公演

12/16[火] 7:00pm | 映像の世紀コンサート

サントリーホール

指揮:下野竜也 音楽・ピアノ:加古 隆 ナレーション:山根基世

加古 隆／パリは燃えているか、時の刻印、シネマトグラフ、はるかなる王宮、神のバッサカリア、最後の海戦、未来世紀、大いなるもの東方より、マネーは踊る、狂気の影、黒い霧、ザ・サード・ワールド、睡蓮のアトリエ、愛と憎しみの果てに

主催:エイベックス・クラシックス お問合せ:チケットスペース TEL(03)3234-9999

2/2[月] 7:00pm | 都民音楽フェスティバル オーケストラ・シリーズ No. 57 NHK交響楽団

東京芸術劇場

指揮:横山 奏 フルート:工藤重典

モーツアルト／歌劇「イドメネオ」序曲

モーツアルト／フルート協奏曲 第1番 ト長調 K. 313

チャイコフスキー／バレエ音楽「白鳥の湖」作品20(抜粋)

主催:(公社)日本演奏連盟 お問合せ: TEL(03)3539-5131

2/22[日] 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 倉敷公演

倉敷市民会館

指揮:ヤクブ・フルシャ ヴァイオリン:ヨゼフ・シュバチエク

ドヴォルザーク／ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品53

グラムス／セレナード 第1番 ニ長調 作品11

主催:NHK岡山放送局／NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

2/23[月祝] 4:00pm | NHK交響楽団 特別演奏会

福岡シンフォニーホール

出演者・曲目は2月22日と同じ

主催:(公財)アクロス福岡 お問合せ:アクロス福岡チケットセンター TEL(092)725-9112

3/6金 7:00pm | N響大河ドラマ＆名曲コンサート supported by SGC

ソニックシティ大ホール

指揮：沖澤のどか 司会：田添菜穂子

〔第1部 | 大河ドラマ編〕

風林火山(2007／千住 明)

豊臣兄弟! (2026／木村秀彬)

秀吉(1996／小六禮次郎)

峠の群像(1982／池辺晋一郎)

元禄縛乱(1999／池辺晋一郎)

源義経(1966／武満 徹[坂田晃一編])

夢千代日記(1981／武満 徹)※NHK「ドラマ人間模様」から

竜馬がゆく(1968／間宮芳生)

利家とまつ～加賀百万石物語～(2002／渡辺俊幸)

天地人(2009／大島ミチル)

〔第2部 | 「大河」にちなんだクラシック名曲選〕

ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」—「夜明けとジークフリートのラインの旅」

イヴァノヴィチ／ワルツ「ドナウ川のさざ波」

スマタナ／交響詩「モルダウ」

主催・お問合せ：サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

3/7土 2:00pm | N響大河ドラマ＆名曲コンサート supported by SGC

所沢市民文化センター アークホール

出演者・曲目は3月6日と同じ

主催・お問合せ：サンライズプロモーション東京 TEL(0570)00-3337

3/8日 3:30pm | N響大河ドラマ＆名曲コンサート

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

出演者・曲目は3月6日と同じ

主催：キッセイ文化ホール((一財)長野県文化振興事業団) お問合せ：キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館) TEL(0263)34-7100

3/15日 2:00pm | 第13回 NHK交響楽団 いわき定期演奏会

いわき芸術文化交流館アリオス アルパイン大ホール

指揮：沖澤のどか ソプラノ：松井亜希 メゾ・ソプラノ：小泉詠子 テノール：清水徹太郎 バリトン：加来 徹

合唱：いわき市民レクイエム合唱団

モーツアルト／アダージョとフーガ ハ短調 K. 546

プロコフィエフ／古典交響曲 作品25

モーツアルト／レクイエム K. 626

主催：いわき芸術文化交流館アリオス お問合せ：アリオスチケットセンター TEL(0246)22-5800

3/25水 7:00pm | 東京・春・音楽祭2026 東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol. 13
シェーンベルク《グレの歌》

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ

ヴァルデマール王:デーヴィッド・バット・フィリップ トーヴェ:カミラ・ニールンド

農夫:ミヒャエル・クブファー・ラデツキー 山鳩:カトリン・ヴンドザム 道化師クラウス:トーマス・エベンシュタイン

語り手:アドリアン・エレート 合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩

シェーンベルク／グレの歌

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

4/5日 3:00pm | 東京・春・音楽祭2026 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 17

4/7火 6:30pm | 《さまよえるオランダ人》(演奏会形式)

東京文化会館 大ホール

指揮:アレクサンダー・ソディ

ダーラント:タレク・ナズミ ゼンタ:カミラ・ニールンド エリック:デーヴィッド・バット・フィリップ

マリー:カトリン・ヴンドザム 舶手:トーマス・エベンシュタイン オランダ人:ミヒャエル・クブファー・ラデツキー

合唱:東京オペラシンガーズ 合唱指揮:エベルハルト・フリードリヒ、西口彰浩 音楽コーチ:トーマス・ラウスマン

ワーグナー／歌劇「さまよえるオランダ人」(全3幕) (演奏会形式／字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050)3496-0202

オーチャード定期

横浜みなとみらいホール 大ホール

1/11日 3:30pm

指揮:トゥガン・ソヒエフ

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

ロッシーニ／歌劇「どろぼうかささぎ」序曲

バーバー／弦楽のためのアダージョ

ワーグナー／歌劇「ワルキューレ」—「ワルキューレの騎行」

ヨハン・シュトラウスII世／ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

4/19日 3:30pm

指揮:ファビオ・ルイージ

クラリネット:松本健司(N響首席クラリネット奏者)

モーツアルト／クラリネット協奏曲 イ長調 K. 622

マーラー／交響曲 第5番 嬰ハ短調

主催・お問合せ:Bunkamura TEL(03)3477-3244

特別支援・特別協力・贊助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 濵谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 長谷川正敏
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
ぴあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

贊助会員

・常陸宮	・有限責任 あづさ監査法人 理事長 山田裕行	・(株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長執行役員 鈴木幸一
・(株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・内 聖美
・(株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・内山貴史
・(株)インホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・EY新日本有限責任監査法人 理事長 松村洋季	・SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・(株)井口一世 代表取締役 井口一世	・(株)NHKアート 代表取締役社長 石原 勉
・(株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・(一財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・(株)NHK エデュケーションナル 代表取締役社長 有吉伸人
・アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・(株)NHK エンターブライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・(株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・(有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・(学)NHK学園 理事長 荒木美弥子
・朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・岩田地崎建設(株) 代表取締役社長 岩田圭剛	・(株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 神田真介

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHKビジネスクリエイト
代表取締役社長 | 柏 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 見部俊一
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 真
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント グループ(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぽ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・木下彰子
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 小渕敏郎
- ・(-社)共同通信社
社長 | 沢井俊光
- ・(株)キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(仮)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートデリクション
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)
代表取締役 | 苦米地英人
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斎藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSAT ホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーブループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 澤本 泉
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長クレープCEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治

- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 真鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 関野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・(株)竹中土木
取締役社長 | 竹中祥悟
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポ・プリモ
代表取締役 | 中村聰武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニケーションズ
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 細包憲志
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・東北電力(株)
代表取締役社長 | 石山一弘
- ・鳥取未広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)TOPPAN三幸会
代表理事 | 金子真吾
- ・トヨク自動車(株)
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺歳人
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 輪野葉穂子
- ・(株)日本ヴァイオリン
代表取締役 | 中澤創太
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 前田浩志
- ・(株)日本政策投資銀行
代表取締役社長 | 地下誠二
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 寺島正道
- ・日本通運(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安鳴 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)ビー・ジー・エム
代表取締役 | 山川慎一郎
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 澤水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・古川宣一
- ・ペプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・松本満里子
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之

- ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 舟曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 近藤明人
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直昭
- ・明治ホールディングス(株)
代表取締役社長CEO | 松田克也

- ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オスティン
- ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
- ・(株)森エンジニアリング
代表取締役 | 森 豊洋
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 岩上秀憲
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井徹
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(株)ルナ・エンターブライズ
代表取締役 | 白鳥正美
- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員 | 東 克己
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 田渕浩記
- ・YCC(株)
代表取締役社長 | 中山武之
- ・(株)ワールド航空サービス
代表取締役社長 | 菊間陽介

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいており、当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

1. 会費：一口50万円(年間)
 2. 期間：入会は隨時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
 3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『「第9」演奏会プログラム』等にご芳名を記載させていただきます。
- N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈（遺言による寄付）を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介しております（三井住友信託銀行と提携）。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けていますため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

曲目解説執筆者

浅井佑太 (あさい ゆうた)

京都大学人文科学研究所准教授。ケルン大学哲学部博士 (Dr. phil.)。専門は19世紀から20世紀のドイツ語圏の音楽、音楽文献学。著書に『Anton Webern: Komponieren als Problemstellung (アントン・ウェーベルン: 問題設定としての作曲行為)』『シェーンベルク』(作曲家・人と作品シリーズ)。

重川真紀 (しげかわ まき)

相愛大学、神戸女学院大学、関西大学非常勤講師。博士 (文学)。専門は19、20世紀のポーランド音楽史、特にカロル・シマノフスキ研究。共訳書に『ショパン全書簡』シリーズ (『1816~1831年: ポーランド時代』『1831~1835

年: パリ時代』(上)、『1836~1839年: パリ時代』(下)、『現代ポーランド音楽の100年——シマノフスキからベンデレツキまで』など。

安川智子 (やすかわ ともこ)

北里大学教授、東京藝術大学非常勤講師。博士 (音楽学)。おもな研究領域は19世紀から20世紀初頭のフランス音楽および音楽理論史。共編著書に『ベートーヴェンと大衆文化』『ハーモニー探求の歴史——思想としての和声理論』、共著書に『オペラの時代』、訳書にフランソワ・ボルシル著『ベル・エポックの音楽家たち』など。

(五十音順、敬称略)

Information

新入団

ファゴット 大内秀介 (おおうち しゅうすけ) 2025年12月1日付で入団。

N響の出演番組

定期公演や特別公演の模様が放送されるほか、
大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。
NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館 (N響定期公演ほか)
Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック
FM 7:35~9:15pm

※2025年度から放送時間が変更になりました。

N響演奏会
FM 土曜4:00~5:50pm (不定期)

クラシックTV (クラシック全般の話題を取り上げます)
Eテレ 木曜9:00~9:30pm
月曜2:00~2:30pm (再放送)

これらの番組は放送終了後もNHK ONE (新NHKプラス)や「らじる★らじる」で1週間何度もご視聴いただけます。
出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力ををお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力

[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

キリトリ
ム。

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、
他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
- Masahiro Morita
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Yuka Yoneda
- * Reika Shimizu
- * Yui Yuhara

Violas

- Ryo Sasaki
- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- * Eri Kurabayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobiwasa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu

Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

Oboes

- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- * Shuhei Nakamura
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- * Hiroki Domen
- Takashi Yamane

Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Shusuke Ouchi
- Yuki Sato
- Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
- Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Kotaro Fujii

Eiji Yamamoto

Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- Shoichi Kubo
- ☆ Toru Uematsu

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

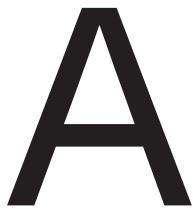
Stage Manager

- Masaya Tokunaga

Librarians

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(○ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)



Concert No. 2051

NHK Hall

November

29 (Sat) 6:00pm

30 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

violin

Leonidas Kavakos

concertmaster

Sunao Goko

Dmitry Shostakovich
Violin Concerto No. 1 A Minor
Op. 77 [38']

- I Nocturne: Moderato
- II Scherzo: Allegro
- III Passacaglia: Andante
- IV Burleske: Allegro con brio

— intermission (20 minutes) —

Alexander von Zemlinsky
Die Seejungfrau, fantasy
(*The Mermaid*) [40']

- I Sehr mässig bewegt
- II Sehr bewegt, rauschend
- III Sehr gedehnt,
mit schmerzvollem Ausdruck

- All performance durations are approximate.

A

29 & 30. NOV. 2025

Artist Profiles

Fabio Luisi, conductor

©Yusuke Miyazaki(SePT)

Fabio Luisi hails from Genoa. He first conducted the NHK Symphony Orchestra in 2001 and became its Chief Conductor in September 2022. He performed Verdi's *Requiem* to celebrate his appointment, and Mahler's *Symphonie der Tausend* for the orchestra's 2000th subscription concert in 2023. In 2024, he led the orchestra's Taiwanese tour, and then in May 2025, he successfully led its European tour scheduled in conjunction with Amsterdam's Mahler Festival at The Concertgebouw, the Prague Spring Festival and the Dresdner Musikfestspiele: the NHK Symphony Orchestra was the first Asian orchestra to appear at the Mahler Festival, performing the composer's Symphonies No. 3 and No. 4 to critical praise.

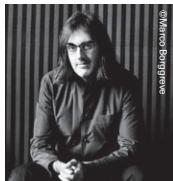
Currently the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra, he was General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of New York's Metropolitan Opera, Chief Conductor of the

Wiener Symphoniker, General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Principal Conductor and Chief Conductor of the MDR-Sinfonieorchester, Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande, Chief Conductor of the Tonkünstler Orchester and Artistic Director of the Grazer Symphonisches Orchester. He is also Music Director of Puglia's Festival della Valle d'Itria Martina Franca and Emeritus Conductor of Orchestra Sinfonica Nazionale della Rai. He is a frequent guest of leading orchestras including the Berliner Philharmoniker, the Royal Concertgebouw Orchestra and the Saito Kinen Orchestra, opera houses and festivals worldwide.

In recording, his complete Nielsen symphonic cycle with the Danish National Symphony Orchestra was recognized with *Limelight* and *Abbiati* Awards in 2023, while its first volume was named Recording of the Year by *Gramophone*. He received a Grammy Award for his leadership of the last two operas of Wagner's Ring cycle at the Metropolitan Opera, as released on DVD. His first CD with the NHK Symphony Orchestra, *Bruckner: Symphony No. 8 (1st version)* was released in May 2025.

He is an accomplished composer and maker of perfumes.

Leonidas Kavakos, violin



Acclaimed for his captivating artistry, superb musicianship, matchless technique and the integrity of his playing, Leonidas Kavakos performs with the world's leading orchestras as both soloist and conductor, and in recital at the world's premier venues and festivals.

Highlights of his 2025/2026 season include performances with the Royal Concertgebouw Orchestra, Gewandhausorchester Leipzig, New York Philharmonic, San Francisco Symphony, hr-Sinfonieorchester Frankfurt, NDR Elbphilharmonie Orchester, Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, Orchestre Philharmonique de Radio France and conducting engagements with Czech Philharmonic, Philharmonia Orchestra, Barcelona Symphony and Minnesota orchestras.

An enthusiastic chamber musician as well, he has released a series of trio recordings with Yo-Yo Ma and Emanuel Ax to the highest critical acclaim.

He was born and brought up in Athens, Greece, where he curates an annual violin and chamber music masterclass which attracts violinists and ensembles from all over the world. In 2022, he founded the ApollΩn Ensemble, a chamber group of elite Greek musicians.

He made his debut with the NHK Symphony Orchestra in 2000 performing Tchaikovsky's Violin Concerto alongside Charles Dutoit. This is his first collaboration with the orchestra since he played Brahms's Violin Concerto in 2021 under the baton of Herbert Blomstedt.

He plays the 'Willemotte' Stradivarius violin of 1734.

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77

St. Petersburg-born Dmitry Shostakovich mostly lived as a citizen of the Soviet Union where the communist regime utilized every art form as a vehicle for their propaganda. Especially during Stalin's era (1924–1953), many artists who didn't meet the official Soviet style called "Socialist realism" put their lives and careers in peril.

Shostakovich was subjected to the two infamous cultural purges in 1936 and 1948. He managed to "rehabilitate" himself writing propagandistic or non-modernist works to please the authorities. However, he openly hid politically rebellious messages in his music, while stashing several improper or artistically ambitious works "in his desk drawer" to avoid the government officials' wrath.

One of his works put in his drawer is the Violin Concerto No. 1 penned between July 1947 and March 1948. Zhdanov, Stalin's right-hand person, denounced Shostakovich and other Soviet composers for their modernist style in February 1948, which prevented the concerto from being made public. In 1955, two years after Stalin's death, the first performance was given in Leningrad by David Oistrakh, the legendary Soviet violinist who inspired Shostakovich to compose both of his Violin Concertos Nos. 1–2 (1948/1967) and Violin Sonata (1968).

No. 1 is not in the conventional three-movement concerto form and has instead four independent movements. The dismal opening, *Nocturne* in A minor, is the only movement where a celesta and harps are called for. The violin solo's extended chromatic monologue gives midway a theme equally utilizing all twelve notes of the chromatic scale, foretelling Shostakovich's subsequent adoption of the avant-garde twelve-tone technique. *Scherzo* has some themes derived from the famous DSCH motif consisting of four notes D–E-flat–C–B (D–Es–C–H in German notation) after the German transliteration of his name (D. SCHostakowitsch). This motif will resound in the composer's Symphony No. 10 which is supposedly linked with Stalin. The third movement is a *Passacaglia*, a form typical of the Baroque era of continuous variation on a given theme (usually a bass line). Here the theme is announced solemnly by low strings and timpani at the start. The grand cadenza (a highly virtuosic violin solo without orchestra) leads without pause to the frenzied *Burleske* in A minor.

Alexander von Zemlinsky (1871–1942)

Die Seejungfrau, fantasy (The Mermaid)

Late-Romantic Viennese composer Alexander von Zemlinsky had long been overshadowed by his contemporaries who were active in Vienna at the turn of the century, such as Gustav Mahler (1860–1911) and Arnold Schönberg (1874–1951). However, Zemlinsky's works including the *Lyric Symphony* (1923) have been performed more and more frequently in later days. Overall, his chromatically-expanded harmonic style follows Mahler and Richard

Strauss without parting from the traditional tonal language. Unlike Schönberg, Zemlinsky's composition pupil and brother-in-law (his sister married Schönberg in 1901), he never adopted the novel twelve-tone technique.

Die Seejungfrau (The Mermaid), a fantasy for large orchestra written in 1902–1903, is also Zemlinsky's representative work. It was premiered at a concert in Vienna in 1905 where Schönberg's *Pelleas und Melisande* was also first heard publicly. *The Mermaid* enjoyed a few more performances before Zemlinsky withdrew it. He then left the score of the first part in Vienna and brought only the second and third parts along when he fled to the US as a Jewish exile in 1938. It was four decades after his passing in New York, that the work was rescued from oblivion by a revival performance, thanks to researchers who had gathered the separate manuscripts together.

The Mermaid is after the fairy tale *The Little Mermaid* by Danish author Hans Christian Andersen (1805–1875). Many commentators have associated the choice of this world-famous love triangle story with the composer's broken heart. Indeed, Zemlinsky was in love with his composition pupil, young and brilliant Alma Schindler (1879–1964) who got engaged to Mahler in 1901 and married him the next year.

The first part of *The Mermaid* begins with the description of unlit ocean floor: over a drone A note, contrabasses and a harp introduce the ascending theme before winds give the undulated theme, both of which will recur throughout the piece as unifying elements. Then a violin solo presents the heroine's theme, probably after R. Strauss's *Ein Heldenleben (A Hero's Life)* (1898) that Zemlinsky said to have studied with absorbed interest. The subsequent music depicts a stormy sea, a shipwreck and the Mermaid rescuing the Prince. The scherzo-like middle part depicts a ball held in the underwater kingdom (we hear a splendid waltz) and the Mermaid trading her voice for a pair of legs at the Sea Witch's. The final part, headed "mit schmerzvollem Ausdruck (with sorrowful expression)", evokes ambivalent feelings and then despair of the mute heroine, now in human shape, at the castle of the Prince who decides to marry a neighboring princess. A quiet mournful music hints the Mermaid's self-sacrificing death after refraining from taking the Prince's life. The ethereal ending with a marked key shift from dark A minor to luminous E-flat major, suggests the Mermaid's ascent to heaven and acquiring of an immortal soul.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).



Concert No.2052

Suntory Hall

December

4(Thu) 7:00pm

5(Fri) 7:00pm

conductor	Fabio Luisi	for a profile of Fabio Luisi, see p. 49
piano	Tom Borrow	
organ	Takeshi Kondo	
concertmaster	Yosuke Kawasaki	

Dai Fujikura
Ocean Breaker for Orchestra—
 in memoriam Pierre Boulez (2025)
 [Commission Work for NHK Symphony
 Orchestra / World Premiere] [16']

César Franck
Variations symphoniques for Piano
 and Orchestra (*Symphonic Variations*)
 [15']

— intermission (20 minutes) —

Camille Saint-Saëns
Symphony No. 3 C Minor Op. 78,
Symphonie avec orgue
 (*Organ Symphony*) [35']

- I Adagio—Allegro moderato—Poco adagio
- II Allegro moderato—Presto—
 Allegro moderato—Presto—Maestoso—
 Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Tom Borrow, piano

© Michael Pava



Born in Tel Aviv in 2000, Tom Borrow is one of the fastest-rising young musicians of his generation. He has been regularly mentored by Murray Perahia through the Jerusalem Music Centre's program for outstanding young musicians. He also participated in masterclasses of András Schiff and Menahem Pressler, among many others.

In 2019, he was called on to replace Khatia Buniatishvili in a series of twelve concerts with the Israel Philharmonic Orchestra. At only 36 hours' notice, he performed Ravel's Concerto in G Major to sensational acclaim. He has since been invited by major

orchestras around the world such as the Cleveland Orchestra, London Philharmonic Orchestra, BBC Symphony Orchestra, Konzerthausorchester Berlin, Czech Philharmonic and Danish National Symphony Orchestra, under the baton of leading conductors including Fabio Luisi, Semyon Bychkov, Vasily Petrenko, Christoph Eschenbach, Sakari Oramo, Thierry Fischer and Masaaki Suzuki.

A former BBC New Generation Artist, he is a recipient of the Alte Oper Frankfurt's Young Artist Prize and the Terence Judd-Hallé Award. Currently, he has served as the Artist-In-Residence at the São Paulo Symphony Orchestra and the Soloist-In-Residence at the Filarmonica Arturo Toscanini.

This is his highly anticipated first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

Takeshi Kondo, organ



Japanese organist, composer and arranger Takeshi Kondo has been the Hall Organist of the Yokohama Minato Mirai Hall since 2022. He held the same title at the MUZA Kawasaki Symphony Hall from 2004 to 2006 and from 2009 to 2018. He graduated from the Tokyo University of the Arts' Composition Department and completed its Practical Music Course's Organ Department, before obtaining his master's degree in organ performance there. He was awarded the prestigious scholarship "The Program of Overseas Study for Upcoming Artists of Japan's Agency for Cultural Affairs" to study in Paris.

He is a sought-after collaborator among Japan's major orchestras and ensembles, while giving solo recitals both at home and abroad and premiering new works of his own and other Japanese composers. The Symphony No. 3 *Organ Symphony* was written by French composer Saint-Saëns who was an outstanding organist himself. No. 3 has nurtured a musical relationship between Kondo and the NHK Symphony Orchestra for over a decade, since the piece accompanied his debut with the orchestra in 2012 at its "Summer" Concert under the baton of John Axelrod. Most recently, Kondo and the orchestra led by Michiyoshi Inoue played No. 3 at the concert celebrating the renewal of the Yokohama Minato Mirai Hall in November 2022.

Program Notes

Dai Fujikura (1977–)

***Ocean Breaker* for Orchestra — in memoriam Pierre Boulez (2025)**

[Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere]

Born in Osaka, Japan, Fujikura started piano at age 5, and soon began to compose, being "sick of faithfully interpreting the notes written by others." He has since cultivated this daring and free spirit, which makes him nowadays one of the world's most original and sought-after composers.

At age 15, he moved alone to the UK, his base today, where he studied under George Benjamin (1960–). One of his breakthroughs emerged at the Lucerne Festival when he was 26: his talent was spotted by French composer and conductor Pierre Boulez (1925–2016) who soon became his mentor and champion. In August 2025, Fujikura's *Ritual* for chamber orchestra and electronics was premiered alongside Boulez's *Répons* at the Lucerne Festival's concert honoring the 100th anniversary of Boulez's birth.

The NHK Symphony Orchestra has long had a close relationship with Fujikura and, most recently, performed his Shakuhachi Concerto in 2023. Back in 2010, the orchestra's six cellists gave the Japanese premiere of Fujikura's *Mirrors* penned for the 85th birthday of Boulez, whose memory the present work *Ocean Breaker* for Orchestra is dedicated to.

Written as a concerto for an entire orchestra, it is marked by a gravity-free fluid nature, one of Fujikura's musical fingerprints. (His Special Essay on the work is on p. 57)

César Franck (1822–1890)

Variations symphoniques for Piano and Orchestra (*Symphonic Variations*)

B

4 & 5 DEC. 2025

César Franck led the French musical scene alongside his thirteen-year junior Saint-Saëns during the mid-to-late 19th century. His disciples (mostly his students at the Paris Conservatoire) reverently called him “Père Franck (Father Franck)”, admiring his sublime artistry and sincere personality. In Paris, these loyal “Franckist” composers including Vincent d’Indy (1851–1931) and Ernest Chausson (1855–1899) will be as influential as their opponent Claude Debussy (1862–1918), a pioneer of the 20th-century bold explorations in music.

Having said that, Franck was not originally from France but Belgium. He was born in Liège to a German/Walloon couple to be active in Paris later. Franck's style full of lyricism is indeed readily differentiated from the typical French composers'. On the model of Bach, Beethoven, Liszt and Wagner, Franck acquired a mastery of counterpoint as well as a sort of Austro-Germanic rigor and formal logic to gain his individual style. Moreover, his expertise as a church organist—namely as an improviser—is definitely connected with his wide range of tonal textures and ingenious harmonic change.

Most of Franck's piano works were written during his earliest years (when he was a child piano prodigy promoted by his ambitious father) and his concluding years. A trigger which revived his passion for piano composition was the symphonic poem *Les Djinns* (1884) for piano and orchestra that he wrote for a commission. Deeply impressed and inspired by the piano virtuoso Louis Diémer who premiered it in March 1885, Franck soon wrote for the pianist, *Variations symphoniques (Symphonic Variations)* for piano and orchestra. The work was first heard in Paris with Diémer as soloist and Franck conducting in May 1886.

Symphonic Variations is performed seamlessly without pause. It first introduces the three main themes: the strings resolutely give the dotted first theme at the outset, immediately before the piano calmly states the descending second theme, and then sings the more melodious third element. Their following variations move from a lyrically dark atmosphere to a radiantly joyous one before the march-inflected finale triumphantly closes the work in F-sharp major.

Symphony No. 3 C Minor Op. 78, *Symphonie avec orgue (Organ Symphony)*

Born in Paris, Camille Saint-Saëns was a genuine musical prodigy. He made his official pianist debut at age 10 composing his own cadenza for a Mozart concerto he programmed for the concert. Then the precocious thirteen-year-old entered the Paris Conservatoire to study organ and composition. Later he was made organist of the Madeleine, one of Paris's important Catholic churches, to remain in the post for twenty years. Franz Liszt (1811–1886) who recognized Saint-Saëns's talent as a pianist and composer hailed him “the greatest organist in the world” as well. Furthermore, Saint-Saëns, a reputable conductor as well, was an enthusiastic supporter of other contemporary composers, conducting Liszt's symphonic poems and defending music of Richard Wagner (1813–1883) in France.

Through his own experiences as an interpreter, Saint-Saëns strongly sensed the necessity of an effort to boost his country's instrumental music repertoire. In fact, operas, ballets and Austro-German music dominated the French classical music life until then. That was a reason why he founded the Société nationale de musique in Paris in 1871 together with musicians such as Franck and Gabriel Fauré (1845–1924). Amid the rising nationalism after Prussia defeated France at the war of 1870–1871, this patriotic association aimed to encourage French composers to write more orchestral and chamber music. It gave the first performances of, besides Franck's above-mentioned *Symphonic Variations*, important works by Debussy, Paul Dukas (1865–1935), Maurice Ravel (1875–1937) and the “Franckists,” among others. Saint-Saëns himself penned various instrumental pieces as well.

The Symphony No. 3 *Organ Symphony* is tied to these efforts, but it came from a different background. Considered then one of the best living French composers in England, Saint-Saëns was commissioned to write a work for London's Philharmonic Society. Possibly inspired by Liszt's *Hunnenschlacht (The Battle of the Huns)* (1857) for orchestra including an organ, Saint-Saëns composed the *Organ Symphony* in 1886. Two months after the premiere in London in May 1886 with Saint-Saëns himself conducting, Liszt passed away. The work was dedicated to the memory of the Hungarian giant.

The entire *Organ Symphony* is unified by the Lisztian transformation of a theme. The wiggling theme is given by the violins after the short slow introduction. The first notes of this theme correspond to the beginning of the *Dies Irae (Day of Wrath)* melody from the Catholic Mass for the Dead. This is highly likely linked with this symphony's bright, optimistic ending in C major.

Overall, the work has a clear but unique structure, having four sections (after the conventional symphony format) being encased two by two in two movements. Symmetrically, the organ opens the second sections of each movement respectively evoking the instrument's introspective and magnificent characters. The symphony also includes virtuosic piano passages for two and four hands, reminding us of the composer's considerable reputation as a pianist.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 52

Private Sketches for the orchestral work *Ocean Breaker*

I must be a rather strange composer—my orchestral piece *Glorious Clouds* is about bacteria, and now *Ocean Breaker*, despite its title, is actually about clouds.

The inspiration for this piece came from a book on clouds that I found in a London gift shop. It was likely intended for children, filled with beautiful illustrations of various cloud formations. But what captivated me most was a type of cloud called Fluctus. These clouds resemble ocean breakers, curling into waves when the wind above them moves significantly faster than the wind below. A rare phenomenon, apparently.

I was drawn to this image, especially because this orchestral work already had a sense of weightlessness and fluid motion. At

the same time, it carries the spirit of a “concerto for orchestra”—where every instrument, even the tuba, has its moment in the spotlight. The music continuously shifts focus, passing the energy from one section to another. Melodies and phrases move at different speeds, mirroring the way Fluctus clouds take shape through contrasting wind currents.

Having written concertos for many instruments—including some rather unusual ones—I felt the time was right to create a work that celebrates the entire orchestra. *Ocean Breaker* is that piece: an orchestral concerto where the waves of sound surge, collide, and transform, much like the ever-changing sky.



Dai Fujikura, composer
©Yuko Moriyama / otocoto

PROGRAM

C

Concert No.2053

NHK Hall

December

12(Fri) 7:00pm

13(Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 49

piano

Eric Lu [The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition]

concertmaster

Yosuke Kawasaki

Frédéric François Chopin
Piano Concerto No. 2 F Minor
Op. 21 [32']

- I Maestoso
- II Larghetto
- III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) —

Carl Nielsen
Symphony No. 4 Op. 29,
***The Inextinguishable* [36']**

- I Allegro
- II Poco allegretto
- III Poco adagio quasi andante
- IV Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Eric Lu, piano [The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition]



Eric Lu was awarded the First Prize at the 19th International Chopin Piano Competition held in Warsaw in October 2025. In the history of this prestigious event, he is one of the only two pianists who became the winner performing Chopin's Piano Concerto No. 2 in F minor, considered more introverted than No. 1, at the final round; the other is his teacher Dang Thai Son, the winner of the 10th edition in 1980.

Lu also won the First Prize at the Leeds International Piano Competition in 2018, after coming to international attention as the Fourth Prize winner at the International Chopin Piano Competition in 2015 aged just 17. A former BBC New Generation Artist from 2019 to 2022, he received the Avery Fisher Career Grant in 2021.

Born on December 15, 1997 in Massachusetts, USA, he is a graduate of the Curtis Institute of Music, studying with Robert McDonald and Jonathan Biss. He already debuted with

the world's major orchestras including the Chicago Symphony Orchestra, London Symphony Orchestra, Boston Symphony Orchestra, Los Angeles Philharmonic and the Oslo Philharmonic alongside Riccardo Muti, Marin Alsop, Vasily Petrenko, Edward Gardner, Thomas Dausgaard, Earl Lee, Ryan Bancroft, Ruth Reinhardt and Martin Fröst, among others.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra.

Program Notes

Frédéric François Chopin (1810–1849)

Piano Concerto No. 2 F Minor Op. 21

Poland's national hero Frédéric François Chopin was born to a French father and a Polish mother near Warsaw. A child prodigy, the future Poet of the Piano received elementary piano lessons from his mother and sister before studying composition under Józef Elsner privately and at Warsaw's High School of Music. Elsner encouraged his talented pupil to extend his own individuality, which laid the groundwork for Chopin's highly personal artistry.

Chopin's works, mostly piano music, are marked by melodic beauty that he owes to his strong attachment for Italian operas and their flowing, ornamental "Bel Canto" singing style. He was an unequalled pianist and improviser himself, which is reflected in the graceful virtuosity, inventive harmonic twists and ornaments found in his piano writing. Finally, we must not forget his ties with the musical heritage of his beloved mother country. Polish folk dances' elements, particularly their rhythms, provide his music with colors and liveliness. His two youthful piano concertos blend those characteristics with influences from older composer-pianists such as Johann Nepomuk Hummel and John Field.

No. 2 in F minor is Chopin's first piano concerto (but published as his second). The rising star penned it in 1829 at age 19, after he gave successful concerts in Vienna performing his *Variations on "Là ci darem la mano"* from *Don Giovanni* and *Rondo à la Krakowiak*, both for piano and orchestra. He premiered No. 2 during his public concert debut in Warsaw in March 1830. The highly-anticipated event, sold out, gathered 900 audience members.

An extensive orchestral introduction opens No. 2 announcing the tense first theme on violins and the idyllic second theme on an oboe, before the pianist's dramatic entrance. The intimate middle movement, evoking a nocturne, expresses Chopin's love for the soprano Konstancja Gładkowska according to his letter to a friend. The final rondo movement is famous for its rhythms of mazurka, a Polish folk dance, and the utilization by violins and violas of the col legno technique of striking the strings with the bow's wood.

C

12 & 13. DEC. 2025

Symphony No. 4 Op. 29, *The Inextinguishable*

Born in the Danish Island of Funen in 1865, Carl Nielsen is considered one of the most essential Nordic composers alongside Jean Sibelius (1865–1957) from Finland, the same age as him, and Edvard Grieg (1843–1907) from Norway. Nielsen studied composition at the Royal Danish Academy of Music in Copenhagen under his compatriot Niels Gade, Grieg's teacher as well. Nielsen then started his career as an orchestral violinist while composing, before serving as a conductor with the Royal Theatre in the capital and the Orchestra of the Copenhagen Music Society.

Nielsen left us a vast catalogue including six unconventional, inventive, beautiful symphonies (first heard on his native soil during his lifetime between 1894 and 1925), concertos, two operas and a profusion of songs and choral works.

The Symphony No. 4 was penned between the summer of 1914 and the beginning of 1916. At the time, both the composer and the world surrounding him stood at the cross-roads, even though Denmark remained neutral during World War I. While going through a marital crisis, Nielsen gained self-confidence as a composer and conductor more than ever following the successful premieres under his own baton of his Symphony No. 3 *Sinfonia Espansiva* and Violin Concerto in 1911. Three years later, he left a conducting position at the Royal Theatre to be a freelance musician for the first time since 1889, which allowed him to spend more time composing the Symphony No. 4.

Nielsen conducted the premiere of No. 4 in Copenhagen in 1916, which was followed immediately by its performances in Stockholm and Berlin. No. 4 was even blessed with the British premiere by the London Symphony Orchestra under the composer's baton in 1923. Alongside the Symphony No. 5, No. 4 is considered today one of Nielsen's greatest works.

Regarding the subtitle *The Inextinguishable* given by the composer himself, the program notes for the premiere and the comments made by Nielsen on various occasions are informative. According to them, the subtitle is an attempt “to suggest what only the music itself has the power to express fully: the elementary will to life.” “Music is life, and like it[,] inextinguishable,” stated Nielsen.

No. 4 is a single-movement symphony composed of four contrastive parts. The most distinctive features are its unpredictable unfoldment, even in the first part in sonata form, and a vital role played by two sets of timpani. Violins and the first timpani assume the calm transition from the kaleidoscopic first part to the pastoral second part. The grievous slow third part begins with a lament sung by violins backed with the first timpani. The second timpani finally appears right before the last Allegro part where two sets of timpani have a heated exchange. The symphony concludes in E major with the support of the second timpani's powerful cadence.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 52

The Subscription Concerts Program 2025–26

2025
12

A

Concert No. 2051

November

29 (Sat) 6:00pm

30 (Sun) 2:00pm

Program A of the December subscription concerts will be held in November.

NHK Hall

B

Concert No. 2052

December

4 (Thu) 7:00pm

5 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C

Concert No. 2053

December

12 (Fri) 7:00pm

13 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

2026
01

A

Concert No. 2054

January

17 (Sat) 6:00pm

18 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B

Concert No. 2056

January

29 (Thu) 7:00pm

30 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C

Concert No. 2055

January

23 (Fri) 7:00pm

24 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

2026
02

A

Concert No. 2057

February

7 (Sat) 6:00pm

8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B

Concert No. 2059

February

19 (Thu) 7:00pm

20 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C

Concert No. 2058

February

13 (Fri) 7:00pm

14 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

Shostakovich Violin Concerto No. 1 A Minor Op. 77

Zemlinsky *Die Seejungfrau, fantasy (The Mermaid)*

Fabio Luisi, conductor

Leonidas Kavakos, violin

Ordinary	Youth
\$11,000	\$ 5,500
A9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C6,000	C2,800
D5,000	D1,800
E 3,000	E 1,400

Fujikura *Ocean Breaker for Orchestra—in memoriam Pierre Boulez (2025)*

[Commission Work for NHK Symphony Orchestra / World Premiere]

Franck *Variations symphoniques* for Piano and Orchestra (*Symphonic Variations*)*

Saint-Saëns *Symphony No. 3 C Minor Op. 78, Symphonie avec orgue*

(*Organ Symphony*)

Fabio Luisi, conductor Tom Borrow, piano* Takeshi Kondo, organ

Ordinary	Youth
\$12,000	\$ 6,000
A10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C6,500	C3,250
D5,500	D2,750

Chopin *Piano Concerto No. 2 F Minor Op. 21*

Nielsen *Symphony No. 4 Op. 29, The Inextinguishable*

Fabio Luisi, conductor

Eric Lu (The Winner of the 19th International Chopin Piano Competition), piano

Ordinary	Youth
\$11,000	\$ 5,500
A9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C6,000	C2,800
D5,000	D1,800
E 3,000	E 1,400

Mahler *Symphony No. 6 A Minor, Tragische (Tragic)*

Ordinary	Youth
\$11,000	\$ 5,500
A9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C6,000	C2,800
D5,000	D1,800
E 3,000	E 1,400

Tugan Sokhiev, conductor

Mussorgsky / Shostakovich *Khovanshchina*, opera

—*Dawn over the Moscow River*, prelude

Shostakovich *Piano Concerto No. 2 F Major Op. 102*

Prokofiev *Symphony No. 5 B-flat Major Op. 100*

Ordinary	Youth
\$12,000	\$ 6,000
A10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C6,500	C3,250
D5,500	D2,750

Tugan Sokhiev, conductor

Kanon Matsuda, piano

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune (Prelude to the Afternoon of a Faun)*

Dutilleux *Cello Concerto, Tout un monde lointain... (A Whole Distant World...)*

Rimsky-Korsakov *The Tale of Tsar Saltan*, suite Op. 57

Stravinsky *The Firebird*, ballet suite (1919 edition)

Ordinary	Youth
\$11,000	\$ 5,500
A9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C6,000	C2,800
D5,000	D1,800
E 3,000	E 1,400

Tugan Sokhiev, conductor

Michiaki Ueno, cello

Schumann *Symphony No. 3 E-flat Major Op. 97, Rheinische (Rhenish)*

Wagner *Götterdämmerung*, opera—*Siegfrieds Rheinfahrt*,

Siegfrieds Tod and *Trauermarsch*, *Brünnhildes Schlussgesang*:

*Starke Scheite schichtet mir dort**

(*Twilight of the Gods*—*Siegfried's Rhine Journey*,

Siegfried's Funeral March, *Brünnhilde's Immolation*)

Ordinary	Youth
\$10,000	\$ 5,000
A8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C5,400	C2,550
D4,300	D1,500
E 2,200	E 1,000

Philippe Jordan, conductor

Tamara Wilson, soprano*

Dvořák *Violin Concerto A Minor Op. 53*

Brahms *Serenade No. 1 D Major Op. 11*

Jakub Hrůša, conductor

Josef Špaček, violin

Ordinary	Youth
\$12,000	\$ 6,000
A10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C6,500	C3,250
D5,500	D2,750

Gergely Madaras, conductor

Kazuaki Kikumoto (Principal Trumpet, NHKSO), trumpet

Ordinary	Youth
\$10,000	\$ 5,000
A8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C5,400	C2,550
D4,300	D1,500
E 2,200	E 1,000

A NHK Hall
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2026
04

A Concert No. 2060

April
11 (Sat) 6:00pm
12 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B Concert No. 2061

April
16 (Thu) 7:00pm
17 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C Concert No. 2062

April
24 (Fri) 7:00pm
25 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

2026
05

A Concert No. 2064

May
23 (Sat) 6:00pm
24 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B Concert No. 2063

May
14 (Thu) 7:00pm
15 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C Concert No. 2065

May
29 (Fri) 7:00pm
30 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

2026
06

A Concert No. 2067

June
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

B Concert No. 2066

June
4 (Thu) 7:00pm
5 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

C Concert No. 2068

June
19 (Fri) 7:00pm
20 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

B Suntory Hall
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

Haydn Cello Concerto No. 1 C Major Hob. VIIb-1
Bruckner Symphony No. 9 D Minor

Fabio Luisi, conductor
Jan Vogler, cello

Mozart Clarinet Concerto A Major K. 622
Mahler Symphony No. 5 C-sharp Minor

Fabio Luisi, conductor
Kenji Matsumoto (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Toyama *Divertimento for Orchestra*
Prokofiev Piano Concerto No. 3 C Major Op. 26
Ifukube *Ballata Sinfonica (Symphonic Ballad)*
Britten *Peter Grimes*, opera—*Four Sea Interludes* Op. 33a

Tatsuya Shimono, conductor Kyohei Sorita, piano

Brahms Double Concerto for Violin and Cello, A Minor Op. 102
Brahms / Schönberg Piano Quartet No. 1 G Minor Op. 25

Michael Sanderling, conductor
Christian Tetzlaff, violin
Tanja Tetzlaff, cello

NHKSO 100th Anniversary: Japanese Composers Series

Kazuo Yamada *Also sang ein Jüngling*, small symphonic poem
(*Thus Sang a Young Man*)
Hartmann *Concerto funebre* (Funereal Concerto)*
Sugata *Symphonic Overture* Op. 6
Hindemith *Mathis der Maler*, symphony (*Matthias the Painter*)
Kazuki Yamada, conductor Suyoen Kim, violin*

Vasks Commission Work for NHK Symphony Orchestra [Japan Premiere]
Shostakovich Symphony No. 4 C Minor Op. 43

Andris Poga, conductor

Wagner *Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel*
(*The Mastersingers of Nuremberg—Prelude*)
Mozart Piano Concerto No. 17 G Major K. 453

Bartók *Concerto for Orchestra*
Jaap van Zweden, conductor
Conrad Tao, piano

Honegger *Pastorale d'été*, symphonic poem (*Summer Pastoral*)
Berlioz *Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)
Iber *Escalas (Ports of Call)*

Debussy *La mer*, three symphonic sketches (*The Sea*)
Stéphane Denève, conductor
Gaëlle Arquez, mezzo soprano

Sibelius *Andante festivo*
Sibelius Violin Concerto D Minor Op. 47
Rakhmaninov Symphony No. 3 A Minor Op. 44

Tadaaki Otaka, conductor
HIMARI, violin

C NHK Hall
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

Ordinary Youth

S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 4,000
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 2,750

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

WEB連載

NHK交響楽団の あゆみ 1951-2026 岩野裕一

THE HISTORY OF
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから



2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、『王道楽土の交響楽』『日本のピアノ100年』などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけています。https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ



- ◎公共メディアNHKを社会へ
- ◎社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めています。

ステラ
net



NHK財団の最新情報はこちらから



「NHK こども音楽クラブ」は、
NHKとNHK交響楽団で
実施している出前授業。
全国各地の学校を訪ね
ミニコンサートを行っています。

間近で聴く演奏に
目を輝かせる子どもたち
そして、素顔のN響メンバーに
出会えるコンサートです。

出前授業の動画が
ホームページで
ご覧いただけます



[https://www.nhk.or.jp/event/
kodomo-ongaku/](https://www.nhk.or.jp/event/kodomo-ongaku/)

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出でて、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

“N響が学校にやってきた”をキャッチフレーズにNHKと共に開催して、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
コントラバス：桑原孝太朗 クラリネット：白井宏典
打楽器：菊池幸太郎
(2025年12月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、ク

N響の社会貢献

ラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしています。幼稚園、飲食店、ショッピングセンターで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に密着した活動を行っています。最近は各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えています。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される『NHKのど自慢』では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マーラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等	理事長	中野谷公一					
	常務理事	三溝敬志	大曾根 聰子				
	理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	錢谷眞美	田辺雅泰
	監事	春原雄策	濱村和則				團 宏明
	評議員	稻葉延雄	江頭敏明	樺山紘一	菅原 直	清野 智	毛利 衛
		根本拓也	前田昭雄	三浦 健	山名啓雄	田中宏暁	檀 ふみ
					渡邊 修	坪井節子	

事務局	演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹	芸術主幹	
	岩渕一真	高木かおり	森下文典	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子
	丸山千絵	沖 あかね	猪股正幸	三浦七菜子	浅田武志	尾澤 勉
	石井 康	内山弥生	吉賀重希		杉山真知子	西川彰一
	利光敬司	徳永匡哉	小倉康平	宮崎則匡		長津紗弥
					山本能寛	

団友	黒柳紀明	田渕雅子	細川順三	山田桂三	打楽器	原 武
	公門俊之	中竹英昭	宮本明恭			山崎大樹
	齋藤真知彌	三原征洋			トランペット	
名誉コンサート マスター	酒井敏彦	村山 弘	オーボエ	有賀誠門	岡田知之	事務局
	清水謙二	山田雄司		井川明彦	瀬戸川 正	
	鈴木弘一		青山聖樹	北村源三	百瀬和紀	福川 洋
堀 正文	田渕 彰	チエロ	北島 章	来馬 賢		入江哲之
	田中 裕		浜 道晃	関山幸弘	ピアノ	金沢 孝
コンサートマスター	鶴我裕子	岩井雅音	茂木大輔	津堅直弘	板本浩規	小林文行
	中瀬裕道	木越 洋		福井 功	本荘玲子	清水永一郎
海野義雄	永峰高志	齋藤鶴吉	クラリネット	佛坂咲千生		中馬 究
川上久雄	根津昭義	三戸正秀			理事長	出口修平
篠崎史紀	堀江 悟	銅銀久弥	磯部周平			芳賀由明
徳永二男	前澤 均	丹羽経彦	加藤明久	トロンボーン	曾我 健	望戸一男
堀 伝	宮里親弘	平野秀清	横川晴児		田畠和宏	諸岡 淳
山口裕之	武藤伸二	藤本英雄			野島直樹	吉田博志
	村上と邦	茂木新緑	ファゴット	栗田雅勝	日向英実	渡辺克
ヴァイオリン	横山俊朗			木田幸紀		渡辺克己
	蓬田清重	コントラバス	岡崎耕治	森 茂雄		
板橋 健			霧生吉秀	吉川武典	今井 環	
梅澤美保子	ヴィオラ	戸田善之	菅原恵子		根本佳則	
大澤 淳		志賀信雄			今村啓一	
大林修子	大久保淑人	佐川裕昭	ホルン	テューバ		
大松八路	小野富士	新納益夫				
金田幸男	梯 孝則		大野良雄	多戸幾久三	役員	
川上朋子	河野昌彦	フルート	中島大之	原田元吉		
木全利行	菅沼準二		樋口哲生		加納民夫	
窪田茂夫	店主真穂	菅原 潤	松崎 裕		唐木田信也	
					斎藤 滋	

フィルハーモニー2025年12月号 | 第97巻 第9号
2025年12月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL:(03) 5793-8111 / FAX:(03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志／編集人◎猪股正幸

企画・編集:(一財)NHK財団
取材・編集:(株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン:寺井恵司

印刷:佐川印刷株式会社
©無断転載・複製を禁ず

響
100年

100th

NHKS
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

1926 - 2026

NHK 交響樂團

100周年記念事業
2026 Jan. — 2027 Jan.

NHK Symphony Orchestra 100th Anniversary:
Major Commemorative Events

2026年、N響は創立100年を迎えます

NHK交響楽団は1926年10月5日、「新交響楽団」の名称のもと、日本初の本格的なプロオーケストラとして産声を上げました。以来、世界一流の指揮者やソリストたちと数多く共演を重ねる中で、我が国を代表するオーケストラに成長。1951年にNHKの支援を受けるようになってからは、「N響」の愛称で皆様に愛されてまいりました。そして、数々の名演に彩られたその歴史は、2026年に「創立100年」という大きな節目を迎え、2026年1月から、さまざまな記念事業を開催します。長い歴史を支え応援していただいたすべての方々への感謝と「次の100年」に向けた私たちからのメッセージを込めた「N響の特別な1年」にどうぞご期待ください。



「100年」を彩る特別な公演

「ドラゴンクエスト IV」コンサート

時代を超えて愛される名作ゲームの楽曲を、オーケストラ版の初録音を担ったN響の演奏で

2026年2月27日(金) 7:00pm 東京芸術劇場 指揮:下野竜也

※他会場でも別日程で開催予定

N響 大河ドラマ＆名曲コンサート<特別編>

楽譜が失われた「源義経」テーマ曲(武満徹・没後30年)復活演奏など、貴重な企画が満載

2026年3月5日(木) 7:00pm NHKホール 指揮:沖澤のとか ほか

※他会場でも別日程で開催予定

日本・シンガポール外交関係樹立60周年 シンガポール公演

両国の佳節を記念し、24年ぶりにシンガポール公演を開催

2026年4月29日(水・祝) 7:30pm エスプラネード 指揮:下野竜也／ピアノ:反田恭平

「N響100年記念曲」の新作委嘱、初演

新作を国内外の2人の作曲家、杉山洋一(7月)とミロスラフ・スルンカ(12月)に委嘱し、世界初演

2026年 7月 3日(金) 7:00pm 東京オペラシティ (Music Tomorrow 2026)

2026年12月10日(木) 7:00pm、11日(金) 7:00pm サントリーホール (2026年12月定期公演Bプログラム)
指揮:杉山洋一(7月)、マキシム・エメリヤニチエフ(12月)／チェロ:ニコラ・アルトシュテット(12月)

N響 × ポケモン クラシックコンサートツアー

2026年に誕生から30年を迎える「ポケモン」とN響の夢のコラボによる全国4か所のコンサートツアー

2026年8月21日(金) 7:00pm 東京芸術劇場

2026年8月22日(土) 3:30pm 京都コンサートホール

2026年8月23日(日) 2:00pm ザ・シンフォニーホール

2026年8月24日(月) 7:00pm アクロス福岡

指揮:横山 奏

創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》

N響100回目の創立記念日(10/5)を力強く祝福するマーラーの名作

2026年10月3日(土) 6:00pm、4日(日) 2:00pm NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ／ソプラノ:イン・ファン／メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード／合唱:新国立劇場合唱団

歌劇「トスカ」(演奏会形式)

数々の名門歌劇場を率いたルイージがN響で初めてオペラを指揮

2026年10月10日(土) 4:00pm、12日(月・祝) 4:00pm サントリーホール ※サントリーホール主催の公演です
指揮:ファビオ・ルイージ／トスカ:エレーナ・スティッキーナ／カヴァラドッシ:リッカルド・マッシ／

スカルピア男爵:アンブロジオ・マエストリ／アンジェロッティ:妻屋秀和／教会の番人:井出壯志朗／

スopr:糸賀修平／合唱:東京オペラシンガーズ／児童合唱:NHK東京児童合唱団 ほか

巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏

99歳プロムシュテットと86歳エッセンバッハによるブラームス交響曲の全曲演奏

2026年10月30日(金) 7:00pm 東京芸術劇場 (交響曲第2番、第4番)

2026年10月31日(土) 4:00pm 東京芸術劇場 (交響曲第3番、第1番)

指揮:ヘルベルト・プロムシュテット(30日)、クリストフ・エッセンバッハ(31日)

ルイージ指揮「N響ニューイヤーコンサート」

新たな100年の幕開けを名歌手たちと華やかに飾る、ルイージ&N響初のニューイヤーコンサート

2027年1月10日(日) 3:00pm、11日(月・祝) 3:00pm NHKホール

※他会場でも別日程で開催予定

指揮:ファビオ・ルイージ／ソプラノ:カミラ・ニールンド／テノール:クラウス・フロリアン・フォークト

「100年」ならではの定期公演での特別企画

邦人作曲家シリーズ (B・Cプログラム 2026年2月～5月)

N響ともゆかりの深い昭和期の邦人作曲家を特集

2026年2月13日(金) 7:00pm、14日(土) 2:00pm (2026年2月Cプログラム)

NHKホール (ムソルグスキー(近衛秀麿編)／組曲「展覧会の絵」ほか) 指揮:ゲルゲイ・マダラシュ

2026年4月24日(金) 7:00pm、25日(土) 2:00pm (2026年4月Cプログラム)

NHKホール (外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント | 伊福部 昭／交響譜詩 ほか) 指揮:下野竜也

2026年5月14日(木) 7:00pm、15日(金) 7:00pm (2026年5月Bプログラム)

サントリーホール (山田一雄／小交響詩「若者のうたへる歌」 | 須賀田礒太郎／交響的序曲 ほか) 指揮:山田和樹

フランツ・シュミット／7つの封印の書 (2026年9月Aプログラム)

ファビオ・ルイージのライヴワーク、フランツ・シュミット畢竟の声楽つき大作で2026-27シーズン開幕を飾る

2026年9月12日(土) 6:00pm、13日(日) 2:00pm NHKホール

指揮:ファビオ・ルイージ／ヨハネ(テノール):ミヒャエル・ラウレンツ／神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス／ソプラノ:迫田美帆／メゾ・ソプラノ:藤井麻美／テノール:伊藤達人／バス:加藤宏隆／合唱:新国立劇場合唱団

ベートーヴェン交響曲全曲演奏 (Cプログラム・「第9」演奏会 2026年9月～12月)

2027年の没後200年に先駆け常連指揮者のタクトで、ベートーヴェンの交響曲を全曲演奏

2026年 9月25日(金) 7:00pm、26日(土) 2:00pm

NHKホール (交響曲第1番／第3番「英雄」) 指揮:ファビオ・ルイージ

2026年10月23日(金) 7:00pm、24日(土) 2:00pm

NHKホール (交響曲第8番／第5番「運命」ほか) 指揮:クリストフ・エッセンバッハ

2026年11月13日(金) 7:00pm、14日(土) 2:00pm

NHKホール (交響曲第2番／第6番「田園」ほか) 指揮:トゥガン・ソヒエフ

2026年12月 4日(金) 7:00pm、5日(土) 2:00pm

NHKホール (交響曲第4番／第7番) 指揮:シャルル・デュトワ

2026年12月17日(木)、18日(金)、19日(土)、20日(日)、22日(火) 開演時刻未定

NHKホール (交響曲第9番「合唱つき」) 指揮:マレク・ヤノフスキ

公演以外の記念事業

「N響100年史」の刊行 (2026年秋)

「100年の歩み」を克明に記した記念誌を発行

『フィルハーモニー』誌での「N響百年史」、公式ホームページでの「NHK交響楽団のあゆみ」の連載を基に、詳細な年表や貴重な写真とあわせて、N響100年の軌跡をたどります。

N響「演奏会記録」公開 (期末未定)

N響100年の全演奏会の記録をデジタル化

オンラインのデータベースとして公開し、検索にも対応します。

このほかにも記念事業を計画中です。お楽しみに。

お問い合わせ

N響ガイド … 0570-02-9502

営業日・営業時間はN響ホームページをご覧ください

nhkso.or.jp



出演者プロフィール・公演詳細は
N響ホームページで公開中

N響ホームページ

N響ニュースレター



最新情報をメールでお届けします

WEBチケットN響の
「利用登録」からご登録ください

WEBチケットN響

Follow us on



- やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合のぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません
- 料金、発売日等チケットについての詳細は、決まり次第、N響ホームページ等でお知らせいたします。●未就学児の入場はお断りしています
- 掲載情報は2025年10月現在のものです。●公演に関する最新の情報は、N響ホームページでご確認ください

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE



番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト(HP)



NHK ONE

アプリ



NHK ONE
ニュース・防災



NHK ONE
for School

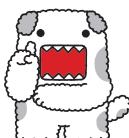


NHK ラジオ
らじる★らじる



NHK ゴガク
語学講座

世帯すでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
(「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)



テレビでもスマホでも



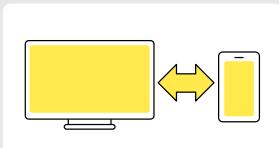
防災機能がさらに充実



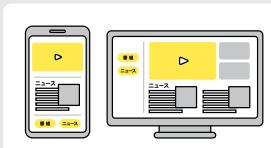
安心して子どもと一緒に



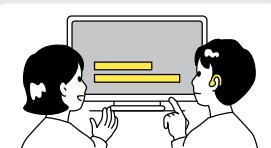
プロファイル設定・デバイス連携



ドラマも最新ニュース記事も



生放送もぴったり字幕で



Change,
Challenge,
Create.

強く、
楽しく、
わたしらしく。



「現場の課題を解決する」学際的なプログラム
Field Linkage® (フィールド・リンクエージ®)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムで、
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を
育成します。

聖徳大学・聖徳大学短期大学部オリジナルの先進的な教育プログラム
Business Field Linkage® (ビジネス・フィールド・リンクエージ®)

高度な専門的学びを実社会（ビジネス社会）と結び付け主体的に活躍
していくための実践的能力を身につけるプログラム。
新しい時代に活躍できるリーダーを育成します。

5年連続!!

2025年 実就職率ランキング

全国女子大学

[卒業生500名以上]



第1位

実就職率97.6%

(卒業生670名、就職者数644名、大学院進学者10名)
※大学通信調べ（2025年7月24日発表）
実就職率(%) = 就職者数 / [卒業生(修了者)数 - 大学院進学者数] × 100



自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学
音楽学部(女子)

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
[博士前期・後期課程] (共学)

～聖徳大学グループ～

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼稚教育専門学校

光英VERITAS高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英VERITAS中学校

聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園

聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園

聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)



指揮: アレクサンダー・ソディ
Conductor: Alexander Soddy

東京
春祭
Spring Festival in Tokyo

ダーラント: タレク・ナズミ
Daland: Tareq Nazmi
ゼンタ: カミラ・ニールンド
Senta: Camilla Nylund

エリック・ディヴィッド・バット・フィリップ
Erik: David Butt Philip

マリー: カトリーン・ヴンドザム
Mary: Katrin Wundsam

舵手: トマス・エベンシュタイン
Der Steuermann: Thomas Ebenstein

オランダ人: ミヒヤエル・クプファーニラデツキー
Der Holländer: Michael Kupfer-Radecky

管弦楽: NHK交響楽団

Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ
Chorus: Tokyo Opera Singers

合唱指揮: エベルハルト・フリードリヒ・西口彰浩
Chorus Master: Eberhard Friedrich, Akihiro Nishiguchi

音楽コーチ: トマス・ラウスマン
Musical Preparation: Thomas Lausmann



Tokyo HARUSAI Wagner Series vol.17
Der fliegende Holländer
(Concert Style)

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.17

さまよえるオランダ人

全3幕／ドイツ語上演・日本語字幕付

(演奏会形式)

2026 4.5 [日] 15:00 4.7 [火] 18:30 東京文化会館 大ホール
S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500 C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000

こちらも必聴! ▶ 目匠マレク・ヤノフスキ指揮《グレの歌》		指揮: マレク・ヤノフスキ ヴァルデマル王: ディヴィッド・バット・フィリップ
東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.13		トーヴ エ: カミラ・ニールンド 農夫: ミヒヤエル・クプファーニラデツキー
シェーンベルク《グレの歌》	2026 3.25 [水] 19:00	山 妻: カトリーン・ヴンドザム 道化師クラウス: トマス・エベンシュタイン
S ¥27,000 A ¥22,500 B ¥18,500 C ¥15,000 D ¥12,000 E ¥9,000 U-25 ¥3,000	東京文化会館 大ホール	語り 手: アドリアン・エレート 管弦楽: NHK交響楽団 合唱: 東京オペラシンガーズ

チケットの申込み 一般発売 11月30日[日] 10:00

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス

www.tokyo-harusai.com

(座席選択可・登録無料)

※U-25は2月13日[金]12:00発売(音楽祭公式サイト限定取扱)



チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

N響ガイド 0570-02-9502

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202 (月・水・金 10:00-14:00)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 後援: 日本ワーグナー協会 助成: 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド



〈紙印刷版&デジタル版 発売中〉

雑誌「目の眼」2025.12月/2026.1月号

特集 廣田不孤斎の時代 新しい美の発見者

不孤斎が生きた、
日本美術が変わる時代が面白い
澤田瞳子（作家）インタビュー

「美術」という日本語が生まれたのは明治5年とのウイーン万博からといわれています。その明治から昭和前期にかけて、アートを蒐集するコレクターや、展覧会でアートを鑑賞するという文化が生まれました。そういう文化の礎を支えてきた存在のひとつに、日本の美術界を牽引してきた美術商たちがいます。廣田不孤斎は、中国鑑賞陶磁の分野を切り拓き、いまや世界に知られる名店「壺中居」（東京・日本橋）を創設、古美術品への情熱を生涯持続して活躍した人物です。その人生と審美眼を、彼が扱った美術品とともに特集しています。

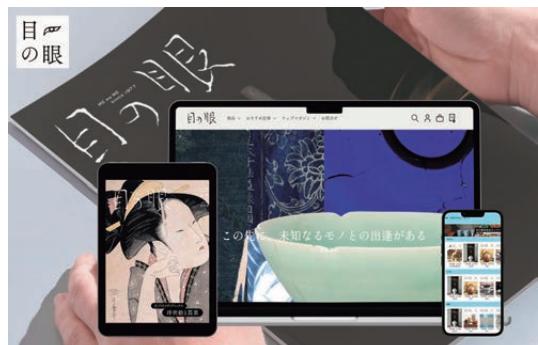
インタビュー&連載

澤田瞳子

細川護熙×宮武慶之

NIGO® 伊藤穰一 ほか

古く美しきモノを知ることで
世界が広がる



骨董 古美術の奥深さをどこよりもわかりやすく

menomeonline.com

目の眼

オンド・マルトノ: 大矢素子 Motoko Oya

テノール: 工藤和真 Kazuma Kudo

薩摩琵琶: 友吉鶴心 Kakushin Tomoyoshi

龍笛: 稲葉明徳 Akinori Inaba

縹纈拓也 Takuya Koketsu

岩崎達也 Tatsuya Iwasaki

二十五絃箏: 中井智弥 Tomoya Nakai

尺八: 長須与佳 Tomoka Nagasu

シンセサイザー: 篠田元一 Motohiko Shinoda

電子バーカッショhn: 篠田浩美 Hiromi Shinoda

男声合唱: 慶應義塾ワグネル・

ソサイエティー男声合唱団

KEIO Wagner Society Male Choir

児童合唱: NHK東京児童合唱団

NHK Tokyo Children's Chorus

司会: 田添菜穂子 Nahoko Tazoe

2026年

3月5日[木]7:00pm
NHKホール(東京・渋谷)

※2 時間程度の公演です

管弦楽: NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



発売開始日 2025年12月19日[金]10:00am(一般)
2025年12月15日[月]10:00am(定期会員先行)

料金 税込／全席指定

	S席	A席	B席	C席
一般	¥12,000	¥10,000	¥7,000	¥5,000
ユースチケット(29歳以下)	¥6,000	¥5,000	¥3,500	¥2,500

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502 チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

e+(イープラス) eplus.jp/nhkso ローソンチケット l-tike.com/nhkso

主催: NHK/NHK交響楽団

N響

特別編

河川響
&名曲コンサート

Taiga Drama & Masterpiece Concert

特別編



©Felix Broede

指揮: 沖澤のどか
Nodoka Okisawa

特別ゲスト:
高橋英樹
Hideki Takahashi



※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。
初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
※車いす席についてN響ガイドにお問い合わせください。
N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※未就学児のご入場はお断りしています。

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm(定休日: 土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は、曜日に問わらず10:00am~開演時刻まで営業いたします。

※電話受付のみの営業となります。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

※公演中止の場合はチケット料金の払い戻しいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

nhkso.or.jp



Follow us on



N響
NHKSO DRAGON QUEST CONCERT
ドラゴンクエスト
コンサート
～導かれし者たち～



2026年

2/27(金)7:00pm 東京芸術劇場

2/28(土)2:00pm パルテノン多摩

3/1(日)3:00pm 森のホール21
(松戸市文化会館)

※途中休憩あり。100分程度の公演です。

主催: NHK交響楽団

協力: 株式会社スクウェア・エニックス/スギヤマ工房有限会社
© ARMOR PROJECT/BIRD STUDIO/SPIKE CHUNSOFT/SQUARE ENIX

発売開始日 2025年12月19日[金] 10:00am(一般)
2025年12月15日[月] 10:00am(定期会員先行)

料金 税込/全席指定

東京芸術劇場(2/27)/パルテノン多摩(2/28)

	S席	A席	B席
一般	¥11,000	¥9,000	¥8,000
ユースチケット(29歳以下)	¥5,500	¥4,500	¥4,000

森のホール21(3/1)

	S席	A席	B席	C席★
一般	¥9,000	¥8,000	¥7,000	¥4,000
ユースチケット(29歳以下)	¥4,500	¥4,000	¥3,500	¥2,000

※定期会員は一般料金から10%割引

★森のホール21(3/1)のC席はステージの一部が見えづらい席となります。

すぎやまこういち
交響組曲
「ドラゴンクエストIV」
導かれし者たち

指揮: 下野竜也 (N響正指揮者)

Tatsuya Shimono, conductor

管弦楽: NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo



©Shin Yamagishi

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引: 先行発売の取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296

www.geigeki.jp/t/ (2/27公演のみ)

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

ローソンチケット l-tike.com/nhkso

お問い合わせ: N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm(定休日: 土・日・祝日)

Follow us on



nhkso.or.jp



N響ホームページ



WEBチケットN響

かんぽ生命 presents

N響 第九

Special Concert

2025年12月26日(金)
7:00pm | サントリーホール

Friday, December 26, 2025 Suntory Hall

バッハ／前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV 552

Bach Prelude and Fugue E-flat Major BWV 552

オルガン：近藤 岳

Takeshi Kondo, organ

ペートーヴェン

交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

一般：

S ¥20,000 A ¥16,500 B ¥13,000 C ¥9,000

ユースチケット(29歳以下)：

S ¥10,000 A ¥8,200 B ¥6,500 C ¥4,500

※全税込価格

チケット発売開始：9月23日(火・祝) 10:00am

N響定期会員先行発売日：9月19日(金) 10:00am

※定期会員は一般料金から10%割引

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)



前売所

● WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

● N響ガイド 0570-02-9502

● サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017
suntory.jp/HALL

● チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

● e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

● ローソンチケット l-tike.com/nhkso



WEBチケット
N響



かんぽ生命

99th
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

© David Diction Dors

指揮：レナード・スラットキン

Leonard Slatkin, conductor



ソプラノ
中村恵理
Eri Nakamura,
soprano



メゾ・ソプラノ
藤村実穂子
Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



テノール
福井 敬
Kei Fukui, tenor



バリトン
甲斐栄次郎
Eijiyo Kai, baritone

合唱：新国立劇場合唱団
New National Theatre Chorus, chorus

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。●車いす席をご希望の方は、N響ガイドへお問い合わせください。●N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

主催：NHK交響楽団

特別協賛：株式会社かんぽ生命保険

NHK 交響楽団
ベートーヴェン「第9」演奏会
Beethoven 9th Symphony Concerts

99th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

想
樂
曲
第
九
番

ベートーヴェン

交響曲 第9番 ニ短調 作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral

©Nico Rodamei

2025年

12/20(土)4:00pm | 12/21(日)2:00pm
12/23(火)7:00pm* | 12/24(水)7:00pm
NHKホール NHK Hall

*23日公演はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。
プログラムは他の日程と同一です。

お問い合わせ
N響ガイド: 0570-02-9502 (営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)
NHK厚生文化事業団: 03-3476-5955 (23日公演のみ、平日10:00am~6:00pm)

チケット発売開始

9月23日(火・祝)10:00am

N響定期会員先行発売日: 9月19日(金)10:00am

料金(税込)

一般	S ¥17,000	A ¥13,500	B ¥10,000	C ¥7,500	D ¥5,000
----	-----------	-----------	-----------	----------	----------

ユースチケット (29歳以下) S ¥8,500 A ¥6,750 B ¥5,000 C ¥3,750 D ¥2,500

※定期会員は一般料金から10%割引

前売所



WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

e+(イープラス) eplus.jp/nhkso

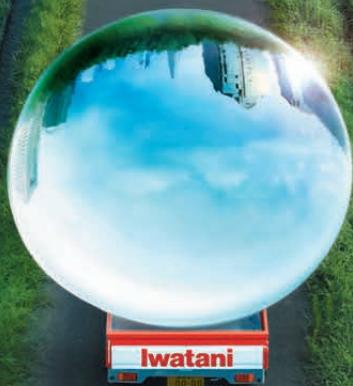
N響ガイド 0570-02-9502

ローソンチケット l-tike.com/nhkso

チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

●ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。●定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。●車いす用席をご希望の方は、N響ガイド(23日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください。●未就学児のご入場はお断りしています。●やむを得ない理由で出演者等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合のぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。●公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maricas**の全国約340万世帯の販売ネットワークを活かし
脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した
低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由來の
水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。
私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ
クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンライン・バイピングを除く。2025年5月現在、自社調べ)

Iwatani

岩谷産業株式会社